

[資料]

先行文献からみた「助産師」を取り巻く動向と 今後の課題

玉熊 和子 高橋 佳子 外 千夏

Key Words : 助産師、産前産後ケアシステム、医中誌データベース、文献検索

I. はじめに

2014(平成26)年度厚生労働省は、既存の母子保健事業に加え、1)産前産後サポート事業(妊産婦の方の孤立感や育児不安の解消を図るための助産師等による専門的な相談援助等)、2)産後ケア事業(出産直後に休養やケアが必要な産婦の方に対し、医療機関等の空きベッドの活用等により、心身のケアや育児サポート等のきめ細かい支援や休養の機会の提供)¹⁾、など、地域の実情に応じて妊娠期から育児期までの切れ目のない支援を展開する「妊娠・出産包括支援事業」を開始した(2014年はモデル事業)。この事業は、きめ細かい支援の提供等と同時に、少子化・核家族化・晩産化・出産施設での入院の短縮化等、現在の妊産婦のおかれた状況の中顕在化している子育て不安や産後うつ・子ども虐待などの改善を目指すものである。

2008(平成20)年に日本初の産後ケアセンターとして、世田谷区と武蔵野大学の共同による「武蔵野大学附属産後ケアセンター」が開設され、出産直後から生後4か月未満児を持つ支援に必要な母子を対象とし、ショートステイ、デイケアなど助産師によるケアサービス(母体ケア、乳房マッサージ、乳児ケアなど)の提供が実施されている²⁾。そして、上述した2014年以降は、全国的に事業が多数展開され、2016(平成

28)年には山梨県と県内全市町村の連携による産後ケア事業(学校法人富士修紅学院に委託)³⁾が開始された。これらの事業の中心は助産師であり、様々な問題を抱えた女性や家族にも対応できる実践能力と、母子や家族への支援体制構築への関与が求められている。

表1に、2005(平成17)年度からの主な母子保健事業^{4) 5)}と助産師関連団体^{6) 7) 8) 9)}の事業一覧を示した。2005年は合計特殊出生率が1.26であり、過去最低の数値となった。また、2005(平成17)年度に厚生労働省は「健やか親子21」の第1次中間評価¹⁰⁾を実施した。当初の4つの主要課題(61項目)のうち58項目については、「良くなっている」70.7%、「悪くなっている又は変わらない」22.4%、「目標値からかけ離れている」6.9%であり、主要課題ごとに必要な見直しが行われた。特に課題2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」においては、産婦人科医・助産師の産科医療を担う人材の確保と適正配置、妊産婦を取り巻く環境づくり等の推進が求められた。2010(平成22)年以前は少子化対策として多くの施策・事業が実施されていたが、2011(平成23)年以降は、少子化社会対策として、少子化を取り巻く社会全体も含めての施策・事業展開となった。また、2016(平成28)年度には地域で

暮らしの人々を中心とした質の高い効率的な医療の実現を目指して、診療報酬が改定（厚生労働省）¹¹⁾された。この改定により医療・看護の方向性は「病院完結型から地域完結型」に転換

し、「地域包括ケアシステム推進」のための取り組みが強化され、地域における母子保健においても同様の取り組みが求められることとなった。

表1 2005年度からの主な母子保健施策・事業と助産師関連団体の事業

西暦	平成	人口の動向	母子保健施策・事業	職能等関連団体の主な動向
2005	17	合計特殊出生率1.26 (過去最低)	健やか親子21 中間評価 母子保健医療対策等総合支援事業開始 子どもの事故予防強化事業開始	
2006	18		マタニティマーク配布	
2007	19		妊婦健診5回へ公費負担拡充 乳児家庭全戸訪問事業開始(こんにちは赤ちゃん事業)	日本助産評価機構設立 新生児蘇生法普及事業開始(日本周産期・新生児医学会)
2008	20		妊婦健診14回へ公費負担拡充 産科救急搬送受入体制の確保開始	
2009	21		健やか親子21第2回中間評価、産科医療補償制度開始 出産育児一時金35万円から38万円へ (産科医療保障制度加入の場合は、出産育児一時金42万円)	
2010	22		子ども子育てビジョン(子ども手当)	
2011	23	婚姻率5.2(過去最低)	HTLV-1母子感染対策事業開始 子どもの心の診療ネットワーク事業開始	助産師による安全で安心な出産環境体制の推進事業開始(3カ年計画・日本看護協会)
2012	24		児童虐待防止医療ネットワーク事業開始	エビデンスに基づく助産ガイドライン刊行(日本助産学会)
2013	25		健やか親子21最終評価	平成25年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業「助産師出向支援モデル事業」報告書(日本看護協会)
2014	26	合計特殊出生率1.42 婚姻率5.1	妊娠・出産包括支援モデル事業開始(産後ケア事業等) 健やか親子21 1次終了	助産業務ガイドライン刊行(日本助産師会)
2015	27		妊娠・出産包括支援事業開始(子育て支援センター整備) 助産師出向支援導入事業開始 健やか親子21 2次開始(～36年) 医療事故調査制度開始	乳腺炎フローチャート刊行(日本助産師会) 助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)“CLOCMiP(クログミップ)”レベルⅢ認証制度開始(日本看護協会・日本助産評価機構) 第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会(横浜) 平成27年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「より効果的な妊娠出産包括事業としての産後ケアのあり方に関する研究」結果報告(日本助産師会)
2016	28			平成28年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「産後ケアガイドライン(案)作成」(日本助産師会)

2012(平成24)年度の日本看護協会による「助産師の出向システムと助産実習の受け入れの可能性等に関する調査」の実施により、助産師出向が助産実践能力の強化に寄与することと、助産師出向のニーズと実現性の示唆について報告¹²⁾された。それを受けて厚生労働省は2013～2014(平成25～26)年度に、産科医不足、助産師の就業先の偏在や助産師としてのキャリアを積み重ねる機会の不足等を解消するための方策として、看護職員確保対策特別事

業「助産師出向支援モデル事業」を、1都14県看護協会に委託し実施した(青森県看護協会は平成28年度から助産師出向支援導入事業開始)。2015(平成27)年度には日本看護協会と日本助産評価機構により、妊娠産婦や新生児に対する安全で良質なケアの提供、助産師の自己啓発や専門能力の向上、実践能力の客観的評価を目的として助産実践能力習熟段階(Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice; CLoCMiP、以下CLoCMiPと略す)レベルⅢ

認証制度が開始された。初年度は5562人、2016（平成28）年度には5540人が「アドバンス助産師」として認定され¹³⁾、「アドバンス助産師」の助産師就業者数に占める割合は32.4%となった¹⁴⁾。

本稿は、「青森県における産前産後ケアシステムの構築」（平成28年度青森中央学院大学共通研究費助成、以下本研究と略す）の研究動機の一部として論ずるものである。本研究は、青森県内における「切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策」事業の進展と県内の現状に合わせた産前産後ケアシステムの構築を図ることを目的とした研究である。

本研究が定義する「産前産後ケアシステム」とは、地域の助産師による妊娠期から産後・育児期の母子および家族に対する心身のケアや育児相談等の機会・場を提供することである。筆者らは「子育てファミリーサポート塾」（2016年8月～2017年3月、青森県助産師会と協同）と表して妊娠期・育児期の母子および家族を対象とした子育て教室等を1回/月の割合で開催した。本研究においては、今後「産後ケア事業」をも含めた「産前産後ケアシステム」の構築に向けて検討を進めている。

そこで、本研究を進めるにあたり、助産師が中心となり展開することが期待されている「産前産後ケアサポート事業」「産後ケア事業」が、助産師の多様な活動の中でどのような位置づけにあるのか、それに向けて今後の課題は何かを見出すために、「助産師」「産前産後ケアシステム」に関連した先行文献を検索し検討する。

II. 目的

「助産師」「産前産後ケアシステム」に関連した先行文献の検索から、「助産師」を取り巻く動向と「産前産後ケアサポート事業」「産後ケア事業」の位置づけと今後の課題について検討する。

III. 方法

1. 「助産師」関連研究の文献検索

先行文献より、「助産師」関連研究の動向を把握する。検索データベース「医学中央雑誌」Web版（以下、医中誌データベースとする）を用いて、2005年～2015年までの11年間における「助産師」をキーワードとした文献（原著論文）を検索した。検索期間は、合計特殊出生率が過去最低値であったこと、「健やか親子21」第1回中間評価において今後の母子保健対策事業および助産師の役割において新たな課題が見いだされたことから、2005年からとした。検索された中から、外国の事例、看護（職）管理、看護職キャリア、臨床検査診断症例に関する研究を除外して抽出し、発行年毎に原著論文数、研究デザイン、メジャー・シソーラス¹（出現総数、各メジャー・シソーラス出現数）を記述統計として整理した。

2. 「産前産後ケアシステム」関連研究の文献検索

上記の医中誌データベース検索を用いて、2005年～2015年までの11年間における「産前産後ケアシステム」の関連研究を検索した。検索語は「産前ケア」「産後ケア」「産前産後ケア事業」「産後ケア事業」とした。「産後ケア」については、検索された文献を島田¹⁵⁾による「産

1 「シソーラス」とはデータベース検索の用語であり、各文献に出現する類似の言葉を一つの言葉に置き換えて表現する用語である。例えば、「産前産後ケア」は「周産期管理」、「産後ケア」は「産後管理」に含まれて検出される。医中誌 web 版では、自動マッピング機能により、キーワードや単語を入力すると、該

当するシソーラスを選択し置き換えて検索する。「メジャー・シソーラス」とは、特に重要なシソーラスを意味する。よって、用いられた「メジャー・シソーラス」により研究内容がおおよそ理解できる。

後ケア」の定義²に基づき分類した。

IV. 結果

1. 「助産師」関連研究の検索

方法1の結果478件が検索され、そのうち抽出条件に適合したものは409件（文末に一覧掲載）であり、表2に文献概要の一覧を示した。主な掲載紙は、各大学紀要、助産学・母性看護関連学会誌（日本助産学会、日本母性衛生学会、日本看護学会等）であった。

1) 論文数

原著論文の論文数を見ると、2005年は39件、2010年は42件、2015年は40件であり、2012年を除いては約40件/年で推移していた。

2) 研究デザイン

研究デザインを「量的研究」「質的研究」で分類した。2005年から2007年は「量的研究」「質的研究」の比率は約2対1で「量的研究」件数が多かった。それ以降は「質的研究」件数が増加し、2008年は17件（計30件中）、2010年22件（計42件中）、2015年19件（計40件中）であった。

また、「量的研究」の中には、2006年・2010年には準ランダム化比較試験研究が1件ずつ、2015年にはランダム化比較試験研究が1件あった。「質的研究」を見ると、2005年は10件中3件、2010年は22件中18件、2015年は19件中12件と半構成的面接法を用いる研究が増加していた。

3) メジャー・シソーラス

「メジャー・シソーラス」を見てみると、研究1件につきメジャー・シソーラス数は1～7個であった。各年で種類総数を見ると、2005年は47個、2010年79個、2011年以降は約60～70個

で推移していた。2005年から2015年において、毎年共通して複数出現していたのは「助産師」「助産学」「産科看護」「分娩」「分娩介助」であった。「母乳栄養」は毎年出現していたが、その年によっては「乳房」「乳汁分泌障害（看護）」（2006年）、「乳房うっ積（看護）」「亀裂（皮膚）（看護）」（2009年）、「授乳」（2012年）として認められた。

4) 特徴的なメジャー・シソーラス

各年での特徴を見ると、2005年は「新生児疾患」「脳性麻痺」「神経管閉鎖不全（予防）」など疾患に関する研究がある一方、「胎児死亡」「死別」「グリーフケア」が出現していた。2007年には、「看護教育」「臨床・臨地実習」が複数件出現しており、さらに「看護教育研究」「看護生涯教育」「教育手法」など教育に関する研究が認められた。2010年には「うつ病-分娩後（予防）」「生殖補助技術」「望まない妊娠」が出現していた。2011年には「院内助産システム」「被虐待女性」「アロマセラピー（看護）」、2012年には「児童虐待（予防）」「配偶者虐待（予防）」、「出生前診断」が出現していた。2013年には、「不妊症（治療・看護・予後）」「新生児蘇生法」、2014年には「医療事故防止」「費用効果分析」、2015年には「帝王切開後経膈分娩」「子宮収縮剤（治療的利用）」が出現していた。

5) 本研究キーワードの属するシソーラス

前頁の脚注に記載したように「産後ケア」は「産後管理」、「産前産後ケア」は「周産期管理」に含まれて検出された。「産前ケア」「産前産後ケア事業」「産後ケア事業」は特定のシソーラスには含まれていなかった。

2 産後ケア：島田（2016）は安全に質の高い産後ケア事業を全国に推進していくことを考慮し「産後ケア」を以下のように定義した。「分娩施設退院後から最大産後4か月の間に、病院・診療所または助産院、産後ケアセンター、あるいは利用者の自宅で、助産師をはじめとする看護職者が、産後の母児とその家族に対し、母親の心身の回復を促進し、母親が自立して育児ができるようになることを目的に、母親の身体的な回

復を配慮したケアを実施しながら、授乳がうまくできるための具体的支援をし、児の状況に応じた育児指導を行う。さらに、パースレビューなどの心理的ケアや夫、上の子、身近な支援者との関係調整を行う。加えて、地域で育児をしていく際に必要な関係諸機関との連絡、必要な社会資源の紹介なども行う一連の支援である」

表2 「助産師」をキーワードとした文献概要(単位:件)

発行年	論文数	研究デザイン		メジャー・シンソーラスの種類[内訳、複数件数のみ数値記載]
		量的研究	質的研究	
2005	39	26	13 (半構成的面接法2 インタビュー調査1 聞き取り調査1)	47 [産科看護6、助産師6、分娩介助6、母乳栄養4、助産学3、母性看護3、育児2、人工妊娠中絶2、性教育2、母性行動2、分娩2、臨床・臨床実習2、FolicAcid(治療的利用)、HIV、圧力、医療関係者の態度、感染予防管理、看護教育、看護倫理、肩、グリーフケア、硬膜外麻酔、産科無痛法、死別、自己管理、授乳、周産期管理、新生児疾患、神経管閉鎖不全(予防)、人体模型、精神保健、専門教育、双生児(看護)、体験学習、体験記、胎児死亡、手、チームナラシング、帝王切開術、脳性麻痺、パニック、不妊症、母子関係、母子保健、母体搬送、リアリテイションック、流産]
2006	30	20 (準ランダム化比較 試験1件)	10 (半構成的面接法3 インタビュー調査2 文献研究1 事例研究1)	53 [助産師7、分娩介助4、うつ病2、産科看護2、周産期管理2、助産学2、陣痛(看護)2、対象受容性2、妊娠管理2、母子保健2、母乳栄養2、異文化間看護、育児、会陰、会陰切開ケア、外来看護、カンガルーケア、看護ケア、看護職の役割、看護大学院教育、経穴、高血圧(合併症・看護)、産後管理、自己管理、自然分娩、需要評価、小児保健医療サービス、心理検査、心理的、新生児看護、人工妊娠中絶、精神的負担、青少年の妊娠、専門看護師、徴候と症状(看護)、乳汁分泌障害(看護)、乳房、乳房うつ病(看護)、妊娠高血圧症候群(看護)、妊娠合併症-心臓血管系(看護)、パニック、疲労、皮膚炎-職業性(予防、疫学、病因)、不妊症(看護)、保健康施設、母子同室ケア、防護手袋、マッサージ、ラテックスアレルギー(予防、疫学、病因)、リアリテイションック、裂傷、労働量]
2007	29	21	8 (半構成的面接法4 インタビュー調査1 事例研究1 参加観察法1、 文献研究1)	52 [助産師12、助産学7、産科看護6、分娩介助4、母子保健3、育児2、看護教育2、母2、臨床・臨床実習2、医療従事者-患者関係、受け持ち看護、家族看護、家族立ち合い分娩、外国人、外来看護、看護学生、看護教育研究、看護職の役割、看護生涯教育、気分障害(診断)、教育手法、グリーフケア、国際協力、産後管理、産婦、児童虐待、社会的支援、社会的責任、職業の移動、信頼、心理的ストレス、精神的援助、精神保健サービス、青少年の妊娠、若年性妊娠、産後管理、産婦、児童虐待、社会的責任、職業の移動、信頼、心理的ストレス、精神的援助、精神保健サービス、不安症(診断)、分娩、保健医療施設、母性看護、母性行動、母体搬送、労働量、ロールモデル]
2008	30	13	17 (半構成的面接法7 インタビュー調査3 文献研究3 (参加)観察法2)	50 [助産師9、助産学8、産科看護5、分娩介助5、看護教育4、臨床・臨床実習4、母乳栄養3、産後管理2、育児2、自己評価2、社会的支援2、地域保健医療サービス2、母子保健2、意識、会陰、会陰、家庭内暴力、家庭内暴力、家庭内暴力、看護必要、看護倫理、患者心理、産院、きょうだい、産婦、自己効力感、周産期管理、出産、女性保健医療サービス、職務満足度、新生児ICU、新生児看護、陣痛、専門職の自律性、胎盤早期剥離(診断、看護)、低出生体重児、帝王切開術、同一化(心理学)、乳児死亡率、妊娠婦死亡率、母、病院内看護業務、分娩第一期、分娩法、ヘルスマンパブリック、保健医療施設閉鎖、母性看護、母乳育児、労働量、労働衛生]
2009	32	19	13 (半構成的面接法6 文献研究4 非構造化面接法1 インタビュー調査1 事例研究1)	56 [産科看護7、助産学6、助産師3、看護教育4、分娩介助4、看護ケア2、性教育2、周産期管理2、分娩2、臨床・臨床実習2、医療過誤、うつ病-分娩後(精神療法)、育児、家庭教育、看護学史、看護技術、看護職の役割、看護生涯教育、患者の満足度、気管内吸引、魚型(皮膚)(看護)、吸引術、健康教育、産後管理、産後管理、職業倫理、自己効力感、自然分娩、集団精神療法、初産、助産師、新生児看護、新生児蘇生法、診断サービス、精神的癒し、専門職の自律性、蘇生、産後管理(看護)、乳汁分泌障害(看護)、乳頭、乳房うつ病(看護)、入浴、尿失禁(予防、看護)、妊娠管理、皮膚疾患(看護)、病院内婦人科、不安(診断)、へき地医療、ヘルスマンパブリック、保健医療施設、母性看護、母性行動、母乳栄養、防護手袋、臨床・臨床実習、臨床能力]
2010	42	20 (準ランダム化比較 試験1件)	22 (半構成的面接法18 インタビュー調査1 事例研究1)	79 [助産師13、産科看護7、産後管理7、助産学7、医療関係者の態度5、分娩4、分娩介助4、臨床・臨床実習3、育児2、家族立ち会い分娩2、看護学生-患者関係2、産褥2、出産2、助産師2、精神の援助2、多機関医療協力システム2、多機関医療協力システム2、保健医療施設2、不妊症(治療)2、母子保健2、うつ病-分娩後(予防)、意識、家族計画、家族心理、カンガルーケア、看護ケア、看護教育、

2. 「産前産後ケアシステム」関連研究の検索

1) 論文数

原著論文の論文数を見ると、「産前ケア」は5件（全5件中）、「産後ケア」は493件（1,142件中）であった。また、「産前産後ケア事業」は0件（会議録のみ3件）、「産後ケア事業」は5件（全23件中）であった。「産前産後ケア事業」については、検索期間に絞り込み制限を加えなくても検出数は0件であった。

2) 「産前ケア」「産後ケア」の先行文献

検出された「産前ケア」の文献は、合併症を持つ妊婦の看護に関する研究1件と海外における研究活動4件（除外対象）であった。

「産後ケア」を検索語とした先行文献は1995年から検出¹⁶⁾され、2005年～2015年の原著論文数は493件であり、島田¹⁷⁾の「産後ケア」の定義に基づき抽出した結果44件であった。尚、検出された44件の分析については次稿にて報告することとする。

3) 「産後ケア事業」の先行文献

「産後ケア事業」の原著論文5件の一覧（表3）を見ると、文献1～3と文献5は同一の産後ケア施設での研究内容であった。これらは、事業評価に関して3件、産後ケアが母親のコン

フォートに及ぼす影響について1件であった。対象は、いずれも産後ケア施設利用者であり、研究デザインは4件全てが量的研究（質問紙調査）であった。

文献1からは、全体的な育児、授乳指導や乳房ケアへの期待が大きく、産後早期に支援を提供しても、1割弱は自己肯定感が持てず、継続支援が必要であることが報告されていた。文献2によると、利用者の受けたサービスは「育児技術指導」「授乳指導」「身体的援助」「精神的援助」「情動的援助」であり、利用した感想は、「良かった」と回答した人が93%であった。文献3によると、後期（産後60日以降）利用者では具体的育児技術指導とともに、母親に対する精神的な援助（助産師による24時間ケア、カウンセリング）が必要とされた。文献5によると、産後ケアは産褥早期・夫以外に身近な協力者がいない母親にとっては、助産師のケアを受けることによりコンフォートが高められ効果的であると報告されていた。

その他、文献4は、産後4カ月までの育児サポート状況を明確化し、A県B病院の産後ケア入院の課題について考察したものであった。

表3 「産後ケア事業」に関する先行研究の概要

no.	著者/タイトル	書誌名	目的	対象	研究デザイン
1	富田素子他（2010） 産後ケア事業の評価、 利用者のアンケート調査から	東京都福祉保健医療 学会誌平成21年度受 賞演題論文集、 p 56-68	産後ケア事業の評価	産後ケア委託事業 利用者103名	量的研究 （質問紙調査）
2	小松崎愛美他（2014a） 産後ケア事業の評価武 蔵野大学付属産後ケア センター桜新町利用者 アンケートから	武蔵野大学看護学部 紀要 5：59-68	産後ケア事業の評価	平成20年7月～12 月に産後ケアセンター を利用した190 名	量的研究 （質問紙調査）
3	小松崎愛美他（2014b） 産後ケア事業の評価利 用時期別のケアニーズ	武蔵野大学看護学部 紀要 8：63-68	事業評価の一環として、 利用の必要性が高い 対象者、効果的な利 用時期、効果的なケア を明らかにすること	A産後ケアセンター を初回利用する 者241名	量的研究 （質問紙調査）

4	出石万希子他 (2014) B病院の産後ケア入院の課題についての考察 - 産後4カ月までの母親の育児サポート状況の調査結果から	聖泉看護学研究3巻、p 67-73	産後4カ月までの育児サポート状況を明確化し、A県B病院の産後ケア入院の課題について考察すること	産後4カ月から1年未満の母親37名	量的研究 (質問紙調査)
5	北田ひろ代 (2015) 産後ケア施設におけるケアが母親のコンフォートに及ぼす影響	母性衛生、56 (1) : 66-76	夜間ケアを行っている産後ケア施設のケアが、母親のコンフォートに及ぼす影響について検討する	A産後施設において、「ショートステイ」を受けた母親105名	量的研究 (質問紙調査)

V. 考察・まとめ

2015 (平成27) 年「少子化社会対策大綱」は少子化社会対策基本法に基づき、総合的かつ長期的な少子化に対処するための施策の指針として閣議決定された。その中の基本的な考え方の一つとして、「結婚・妊娠・出産、子育ての各段階に応じた切れ目のない取組」と「社会全体の取組」が両輪となり、きめ細かな対応が必要である¹⁸⁾と記載されており、助産師にもそれらに対応した役割が求められている。

よって、今回、「助産師」「産前産後ケアシステム」に関連した先行文献から明らかになったことを踏まえて、助産師を取り巻く動向と「産前産後ケアサポート事業」「産後ケア事業」の位置づけ、今後の課題について考察する。

1. 先行文献からみた助産師を取り巻く動向

「助産師」をキーワードとする先行文献を概観すると、原著論文は478件、平均約40件/年となっており、過去11年間でほぼ同じ件数で推移していた。メジャー・シソーラスの数・種類が変化していることから、助産師の活動範囲・役割が拡大してきたことが研究内容からも推察された。

研究デザインを「量的研究」と「質的研究」に分けて比較したところ、2005年ではその比率は2対1であったが、2008年から半構成的面接法を用いた研究が増え始め、2015年には約1/2

ずつの割合となっていた。このことから、多様なニーズを持つ妊産婦に対して、標準的なケアの提供にとどまらず、心の動きや行動選択のプロセスなどを尊重した個別性のあるケアが実践されてきていることが推察される。

メジャー・シソーラス種類総数からは、2005年47件、2010年79件、2015年66件と増加し、助産師の活動・役割の範囲が拡大されてきたことが推察される。シソーラスとは、出現する類似の言葉を一つの言葉に置き換えて表現する用語(統制語)である¹⁹⁾。メジャー・シソーラスから研究内容を見てみると、2005年は助産師の専門性とするところの助産ケアに関する内容が多くみられた。2007年以降は助産(師)教育に関する内容が増加したことから、看護系大学助産師課程・助産師養成校(大学・専攻科)の増加やそれに伴う定員の増加、カリキュラム改正に関連があると推測できる。また、母乳哺育推進の全国的な動きに合わせて、母乳栄養に関する内容は継続して見られたと考える。2009年には性教育、2010年には産後うつ病、2013年には院内助産システム、2014年には医療安全に関する内容が見られるなど、助産師の対象者のニーズ、実践の場や機会が増えたことが推察される。さらに、「院内助産システム」に関して言及すると、「院内助産システム」とはいわゆる「院内助産所(院)」として病院施設内で正常な妊産婦を対象にケアを展開している部署を指す言葉であ

る。それが、検索データベース上の統制語として扱われるようになったということは、その言葉の持つ意味・存在が社会的に影響を及ぼしたり、認知されたことを示していると考えられる。それを考慮すると、「産前産後サポート事業」「産後ケア事業」の検索語にシソーラスとして扱われているものではなく、今後の研究報告の増加に期待するところである。

以上、「助産師」関連の先行文献から、助産師は社会の変化に対応して実践の場や役割が増えた上に、妊産婦への個別性を捉えたケアの実践が必要とされており、求められている役割が量・質ともに重要であることが示唆された。しかし、そのように活動範囲が拡大されているにもかかわらず、原著論文としての公表数に変動がないことは、「助産師」の専門性の認知や社会的な役割・活動の周知に影響を及ぼしている可能性も危惧される。それらのことから、妊産婦の多様なニーズに対応し、助産師の実践力を向上させるためにも、一つ一つのケアや日々の実践を分析して、その成果を根拠として示していくことが必要である。

2. 「産前産後ケアシステム」構築に向けて今後の課題

従来、「産後ケア」は定義づけされることなく、褥婦や産後の母親への一般的なケアとして通用されていた。そのため、病院や地域などの場で、対象となる方々のニーズに応えるべく様々なケアが提供されるという状況であった。このように「産後ケア」が標準化されていない状況を受けて、島田²⁰⁾により初めて「産後ケア」の定義づけがなされた。今回、「産後ケア」で検索された文献は原著論文では493件であったが、上記の定義に基づいた結果抽出された件数が少なかったのは、このような背景によるものと推察される。

また、「産後ケア」の先行文献として検索された1995（平成7）年の報告²¹⁾は、同年に市町村における母子保健事業の一環として制度化

された「産後ケア事業」の推進について述べたものであった。この事業は、対象・利用期間・保健指導内容等が実施要項により示されており、市町村が助産所に委託して行われた選択事業²²⁾であった。しかし、一般化されることなく経過し、2014（平成26）年に新たに既存の「産後ケア事業」の内容を含めた「妊娠・出産包括支援事業」として実施されることとなった。「産後ケア事業」についての報告数が少なく、同一施設からの報告に限定されていたのは、このような経緯が理由と考えられる。

2015（平成27）年、日本助産師会は平成27年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「より効果的な妊娠出産包括事業としての産後ケアのあり方に関する研究」²³⁾結果について報告し、2016（平成28）年度には「産後ケアガイドライン（案）」作成のための調査研究が国庫補助事業²⁴⁾として採択されたばかりである。今後、活発に検討されることが期待される。

一方、「産前ケア」については、当該事業の期待する「産前産後ケアサポート事業」について論じられた文献は皆無であった。よって、今後は安全で質の高い「産後ケア事業」が求める「産後ケア」と合わせて、「産前ケア」についても検討・実践・評価が必要である。

VI. おわりに

本研究は、「青森県における産前産後ケアシステムの構築」（平成28年度青森中央学院大学共通研究費助成）の研究動機の一部として論じるために、先行文献の検索から「助産師」を取り巻く動向と「産前産後ケアシステム」の今後の課題について検討した。その結果、助産実践力の向上、より良い助産ケア提供者として、日々の実践を評価して公表していくことの必要性が明らかになった。今後は「産前ケア」「産後ケア」の検討結果と現在調査中の結果を踏まえて、地域の実情に合った「産前産後ケアシステム」を検討していくことが課題である。

[文献]

- 1) 母子保健事業団：わが国の母子保健平成28年版、p69、2016.
- 2) 古舘恵美子・小林圭子：産後の悩み・不安に寄り添う - さくら産後ケアセンターの導入プロセスと支援の実際、臨床助産ケア、8 (1)、111-118、2016.
- 3) 山梨県産後ケア事業、健康科学大学産前産後ケアセンターママの里、
<http://www.kenkoudai.ac.jp/sangocare>、2016年3月28日15時26分取得
- 4) 前掲書1)、p52.
- 5) 公益財団法人日本医療機能評価機構、産科医療保障制度
<http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/outline/purpose.html>、2016年12月27日14時50分取得
- 6) 公益社団法人日本看護協会、関連事業ホームページ
<http://www.nurse.or.jp/home/about/jigyuu/history.html>、2016年12月27日14時30分取得
- 7) 公益社団法人日本助産師会、本会の活動
<http://www.midwife.or.jp/association/ayumi.html>、2016年12月27日14時40分取得
- 8) 一般財団法人日本助産評価機構、助産師個人認証制度
<http://jime2007.org/>、2016年12月27日14時45分取得
- 9) 日本周産期・新生児医学会ホームページ
<http://www.jspnm.com/aboutgakkai/goaisatsu.aspx>、2016年12月19日17時45分取得
- 10) 厚生労働省、「健やか親子21」中間評価報告書について、
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/03/s0316-4.html>、2017年2月25日14時26分取得
- 11) 厚生労働省、平成28年度診療報酬改定について
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/00010642.html>、2017年1月7日14時50分取得
- 12) 公益社団法人日本看護協会：平成26年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業「助産師出向モデル事業」報告、2014.
- 13) 日本助産評価機構助産実践個人認証評価部：データで見る、都道府県別アドバンス助産師、特集制度の根底にあるもの・期待されること、助産雑誌、70 (4)、274、2016.
- 14) 日本助産学会マンスリーメール1月号
<http://square.umin.ac.jp/jam>、2017年1月13日14時10分取得
- 15) 島田真理恵：平成27年度 子ども・子育て支援推進調査事業「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」研究結果の概要、助産師、70 (3)、11-14、2016.
- 16) 宮崎文子：特別寄稿「産後ケア事業」に関心を、助産婦雑誌、49 (9)、62-70、1995.
- 17) 前掲書15)
- 18) 前掲書1)、p116.
- 19) 医中誌 web、シソーラス参照
http://www.jams.or.jp/web_help5/th.html、2016年4月26日15時50分取得
- 20) 前掲書15)
- 21) 前掲書16)
- 22) 前掲書1)、p67.

- 23) 島田真理恵：平成27年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」研究報告書、公益社団法人 日本助産師会、2016.
- 24) 公益社団法人日本助産師会、平成28年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「産後ケアガイドライン作成および産前産後の支援のあり方に関する研究」採択
<http://www.midwife.or.jp/association/activity.html>、2017年3月1日11時50分取得

※表2で分析対象となった文献は文末に一覧として示す。表3の文献については、本文中に示したことから引用文献としての記載は省略する。

【文末資料】 Web 版医中誌データベースより検索した文献一覧

No.	タイトル	著者名	雑誌名	出版年
1	助産師学生の分娩介助に対する産婦の認識	渋谷 さおり、古磯 祥子、大石 由美子	助産雑誌、59 (1)、70-76	2005
2	助産所から母体搬送後、緊急帝王切開となったケースの出産および産褥入院中の体験	横手 直美	助産雑誌、59 (2)、160-168	2005
3	助産師教育における母乳育児に関する講義および臨地実習での学習内容の検討 O 大学保健学科助産師コース第二回生の場合	小野清美	岡山県母性衛生、(21)、27-29	2005
4	育児見事体験人形を用いた体験学習の教育効果	野口純子	香川県立保健医療大学紀要、1、147-151	2005
5	助産師の母性意識の構造 (The Structure of the Midwives Maternal Consciousness) (英語)	Matsumura Keiko	香川県立保健医療大学紀要、1、1-9	2005
6	母乳育児への支援 分娩後退院までの初産婦への助産師による授乳援助を中心に	小柳 布佐、佐々木 百合子、塚田 トキエ	聖隷クリストファー大学部紀要、(27)、25-32	2005
7	赤十字関連施設における新人助産師のリアリテショクの実態と助産教育背景および現任教育における指導体制との関連	喜多里己、村上明美	日本赤十字看護大学紀要、(19)、35-44	2005
8	助産学教育の展望 看護系大学の実態調査	三井 政子、唐沢 泉、大野 弘恵	岐阜医療技術短期大学紀要 (20)、115-120	2005
9	公立高等学校で行われた助産師による性教育の実態	工藤 里香、古山 美穂、森川 香織、井端 美奈子、大平 光子、町浦 美智子、末原 紀美代	大阪府立看護大学看護学部紀要、11 (1)、31-34	2005
10	主体的学習態度をはぐくむ教育方法 助産学演習における少人数グループワークの試み	大平 光子、井端 美奈子、町浦 美智子、古山 美穂、工藤 里香、森川 香織、末原 紀美代	大阪府立看護大学看護学部紀要、11 (1)、23-29	2005
11	チーム医療のなかでの助産活動 開排制限・不随意運動・日常生活全介助の脳性麻痺妊婦の経膈分娩事例にかかわって	阿部聖世	助産雑誌、59 (3)、248-252	2005
12	【母乳外来からみる”お金とケア”の関係】助産師が自主運営する施設内助産所と助産師外来に関する調査	佐藤喜根子、佐藤祥子	助産雑誌、59 (3)、221-227	2005
13	思春期性教育に関する保健・医療関係者の意識調査	松本 淳子、武田 敏	看護実践の科学、30 (3)、72-80	2005
14	保健師・助産師による新生児訪問指導事業の評価：育児不安軽減の観点から	佐藤 厚子、北宮 千秋、李 相調、面澤 和子	日本公衆衛生雑誌、52 (4)、328-337	2005
15	山口県における分娩取り扱い施設に勤務する看護スタッフの患者体液接触経験と妊婦 HIV 検査に関する意識	戸部郁代、佐世正勝	母性衛生、46 (1)、135-142	2005
16	退院後の母乳ケアに関する現状	松永 佳子	母性衛生、46 (1)、111-118	2005
17	妊娠中の葉酸摂取指導の実態調査 日本 N 県支部会員を対象とした栄養指導に関する調査より	上田恵子	母性衛生、46 (1)、46-52	2005
18	マネジメント方式としてのセルフケアマネジングチーム制に対する実践者の評価	片桐 麻州美、福井トシ子、堀内成子	日本助産学会誌、19 (1)、43-51	2005
19	肩甲娩出時に助産師の手掌部にかかる圧力	中川有加	日本助産学会誌、19 (1)、30-42	2005
20	外来助産師が行っている当院分娩予定妊婦への個人面接の効果	小川 さゆり、操 華子	聖路加看護学会誌、9 (1)、55-61	2005
21	死産を経験した母親を支えるケア：セルフヘルプミーティングがもたらす人間的成長	宮本 なぎさ、太田 尚子、堀内 成子	聖路加看護学会誌、9 (1)、45-54	2005
22	パニック状態となった産婦に対する助産ケアの一考察 パニック状態になる要因とその状態を回避・軽減する援助	伊藤恵里奈、小川久貴子	日本ウーマンズヘルス学会誌、4、127-137	2005
23	産後の育児支援「日帰りケア」の取り組み	太田黒 香織、小菅 暁子、佐藤 みどり、武谷 博美、田尻 由貴子	チャイルドヘルス、8 (6)、456-460	2005
24	【「陣痛」と「麻酔」】麻酔分娩をどう考えていますか？ 助産師側にある「麻酔分娩」への価値観	三國和美	助産雑誌、59 (6)、479-485	2005
25	助産師の心理的 well-being の発達に関する研究	石倉弥生、深田美香、松浦治代、宮脇美保子	日本医学看護学教育学会誌、(14)、25-31	2005
26	人工妊娠中絶を受ける女性に対する看護者のケア体験と看護観の分析	勝又 里織、松岡 恵、三隅 順子、清水 清美	女性心身医学、10 (2)、85-93	2005
27	人工妊娠中絶術施行に対する医療者の意識調査	西原里香、森村美奈、中山絢子、田中久美、武悦子、石松桂子、山根誠一、中井祐一郎、石河修	日本性科学会雑誌、23 (1)、24-29	2005
28	不妊にまつわる悩みの相談 大阪府不妊専門相談事業の取り組み	岡永 真由美、橋本 富子、高田 昌代、島本 太香子、星合 昊、西野 英男	母性衛生、46 (2)、412-420	2005
29	快適な妊娠・出産を支援する基盤整備に関する研究：助産師を対象として	柴田 眞理子、尾島 俊之、阿相 栄子、中村 好一、岡井 崇、戸田 律子、北井 啓勝、林 公一、三砂 ちづる	母性衛生、46 (2)、374-383	2005
30	分娩期ケアにおける助産師の Self-Efficacy	宮本 江利子、高橋 真理、鳥袋 香子	母性衛生、46 (2)、365-373	2005
31	双胎妊娠・分娩における助産師の業務と責任および医師との連携	山崎 由美子、久保田 隆子、中山 和美、寺田 眞廣	母性衛生、46 (2)、275-283	2005

32	妊産褥婦の主体的な取り組み 助産院での縦断的面接を通して	二川 香里、永山 くに子	母性衛生、46 (2)、257-266	2005
33	【緊急帝王切開、事前・事後にできること】緊急母体搬送前後における妊産婦と夫の実態調査から - 助産師の連携と看護の課題	保条 麻紀、中山 サツキ、中島 昌子	助産雑誌、59 (7)、600-605	2005
34	倫理的問題の認識に関する助産師の専門性と職業キャリア	中尾久子、長川トミエ、藤村貴枝、堤雅恵、中村仁志、森田秀子、大林雅之、小林敏生	生命倫理、15 (1)、11 - 119	2005
35	開業助産師と連携した新しい分娩システム 助産師主導による分娩の医学的データの検討	町田稔文、早乙女智子、植村次雄、佐藤啓治	ペリネイタルケア、24 (11)、1140-1144	2005
36	助産師実習における分娩介助件数に関する調査	蓼沼 由紀子、鈴木 由美	桐生短期大学紀要、(16)、77-80	2005
37	分娩中の看護援助における助産師・産婦の発話・発言の分析	沼館紀子、高橋みや子	北日本看護学会誌、8 (1)、13-26	2005
38	流産・死産・新生児死亡にかかわる助産師によるケアの現状	岡永真由美	日本助産学会誌、19 (2)、49-58	2005
39	出産3カ月間の授乳の体験 子どもとのかかわりの中で自分なりの授乳を見いだしていくプロセス	土江田奈留美	日本助産学会誌、19 (2)、9-18	2005
40	日本の助産婦における個人保護装備としての手袋の選択と職業性皮膚炎 (Glove Selection as Personal Protective Equipment and Occupational Dermatitis among Japanese Midwives) (英語)	Sasaki Minako, Kanda Katsuya	Journal of Occupational Health、48 (1)、35-43	2006
41	わが国における「Care in normal birth: a practical guide」の実践状況と改善点	岩谷澄香、赤井由紀子、内山和美、鍵谷英明、山川正信	母性衛生、46 (4)、666-673	2006
42	分娩直後のカンガルケアが生後1カ月の母乳栄養継続率に及ぼす影響	熊井秋穂、佐伯薫、下田和恵、高橋美帆、兵庫千夏、喜多里巳	母性衛生、46 (4)、649-654	2006
43	フリースタイル分娩をした産婦の分娩の達成感	鈴木静、高橋弘子、村山正子	母性衛生、46 (4)、625-632	2006
44	群馬県における専門看護師教育ニーズに関する調査	神田清子、牛久保美津子、斉藤泰子、斉藤やよい、常盤洋子、二渡玉江、小泉美佐子	群馬保健学紀要、26、89-95	2006
45	思春期世代の人工妊娠中絶経験者における精神的な障害および身体的な障害の有無とその実態に関する予備的研究	木戸久美子	山口県立大学看護学部紀要、(10)、3-7	2006
46	「身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス」実践のための医療者セミナーの評価と今後の課題 参加者へのアンケート調査から	三根有紀子、佐藤香代、浅野美智留、石村美由紀、吉田静、鳥越郁代、野中多恵子、宮野由加利、藤本清美	福岡県立大学看護学部紀要、3 (2)、89-99	2006
47	新生児・乳児訪問指導内容の分析	宮城章子	沖縄の小児保健、(33)、18-20	2006
48	岡山県内の母乳育児支援の実態	大島あゆみ、川口麻衣子、守分幸子、花田幸江、大井伸子	岡山県母性衛生、(22)、34-36	2006
49	新人助産師の6か月間におけるリアリティショックの構造	原田通子、久米美代子	日本ウーマンズヘルズ学会誌、5、47-57	2006
50	胎児異常を診断された妊婦をケアする看護師が援助を通して大切にしていること	赤羽洋子、上条陽子、黒田裕子、吉沢豊子、跡上富美、平石哲子、西村理恵	長野県看護大学紀要、8、21-28	2006
51	助産師外来の実態報告 母親の求める新たなケアへの取り組み	久米法子、白井美智子	ペリネイタルケア、25 (3)、284-285	2006
52	皮膚表面温度からみた産褥早期の乳房マッサージによる自律神経への作用	小西清美、吉留厚子、宮崎文子、神代雅晴	母性衛生、47 (1)、99-106	2006
53	1カ月の乳児をもつ母親の健康感と対児感情に関する検討	関島英子、齋藤益子、木村好秀、菱沼久子	母性衛生、47 (1)、62-70	2006
54	わが国の妊産婦ケア施設における病棟編成および分娩助産者の職種からみたケアの実態	江守 陽子、野口 恭子、石井 トク	母性衛生、47 (1)、52-61	2006
55	産婦が満足感を得られるための助産援助の一考察 マズローの欲求段階論を用いて	古田茜、小川久貴子	日本ウーマンズヘルズ学会誌、5、139-146	2006
56	産痛により危機状態に陥った産婦に対する助産ケアの一考察 助産学生と産婦の心理過程の比較から	山田麻紗子、村山より子	日本ウーマンズヘルズ学会誌、5、129-137	2006
57	断乳時の桶谷式乳房マッサージによる主観的不快症状、乳房緊満および乳房表面皮膚温度の変化	吉留厚子、小西清美	日本助産学会誌、20 (1)、60-68	2006
58	異文化圏からの人々の出産に対する助産ケアの現状 文化を考慮したケアの実現に向けて	藤原ゆかり	日本助産学会誌、20 (1)、48-59	2006
59	女性にやさしい助産ケア 会陰切開の適用を再考する	辻恵子、小黑道子、土江田奈留美、中川有加、堀内成子	日本助産学会誌、20 (1)、7-15	2006
60	日本の赤ちゃんは出産後に母子同室で過ごしているか 産婦人科医と助産師を対象とした横断研究より	三砂ちづる、竹原健二、岡井崇、戸田律子、北井啓勝、林公一、柴田真理子、尾島俊之、阿相栄子、中村好一	母性衛生、47 (2)、448-454	2006
61	高度会陰裂傷発生に対するリスク因子の検討	吉田温子、尾山裕美、竹内千恵美、酒井和子、川端伊久乃、中井章人	母性衛生、47 (2)、365-371	2006
62	産後うつ状態に影響を及ぼす背景因子についての縦断的研究 (第二報) 産後うつ状態の対児感情・児への愛着との関連	佐藤奈緒子、森岡由起子、佐藤文、生地新、村田亜美	母性衛生、47 (2)、330-343	2006
63	産後うつ状態に影響を及ぼす背景因子についての縦断的研究 (第一報) 母親自身の被養育体験・内的ワーキングモデルおよび児への愛着との関連	佐藤奈緒子、森岡由起子、佐藤文、生地新、村田亜美	母性衛生、47 (2)、320-329	2006

64	妊産婦に対する三陰交ツボ刺激の効果に関する助産師の認識	中道美言、西村明子、大橋一友	母性衛生、47 (2)、313-319	2006
65	わが国における“Care in normal birth : a practical guide”の実態 病院と有床診療所の調査 助産師数からみた検討	赤井由紀子、山川正信、岩谷澄香、内山和美、 鍵谷英明	母性衛生、47 (2)、304-312	2006
66	陣痛室における夜勤帯の1対1看護の導入を試みて	是枝貴子、江田尚子、鶴田早苗、上サキ子、 伊集院雅子、今村昭一	母性衛生、47 (2)、299-303	2006
67	分娩時に脳内出血を発生した2症例を経験して 母体、児、家族の危機をどうささえるのか	小松理恵、小沼武英、渡辺孝紀	Neurosurgical Emergency、11 (1)、84-87	2006
68	初学者である助産師学生の正面介助分娩助産技術における作 業姿勢および精神的負担の検討 熟練助産師との比較	小西清美、神代正晴、泉博之	人間工学、42 (4)、251-258	2006
69	初妊婦におけるセルフケア行動の向上を目指した健康学習指導 の実施と評価	眞鍋えみ子、松田かおり	日本助産学会誌、20 (2)、31-39	2006
70	岩手県立釜石病院助産師外来の現状と課題	小笠原敏浩、村井真也	岩手県立病院医学学会雑誌、46 (2)、145-150	2006
71	日本と韓国における産後の母親に対する支援内容と満足度の2国 間比較	八代利香、吉留厚子	母性衛生、47 (4)、547-553	2007
72	助産師のロールモデルタイプと職業継続意思との関係 (Relationship between role model and career in midwifery) (英 語)	亀田幸枝、島田啓子、久保田泰加、坂上和香、 佐藤育実、堀部梨可、山下莉奈	金沢大学つるま保健学会誌、30 (2)、161-167	2007
73	日本における助産師のキャリアの発達に関する文献レビュー	青柳優子、石村由利子、大槻優子、飯野伸子、 堀田久美	医療看護研究3 (1)、69-74	2007
74	産褥期のケアを提供する看護の主観的多忙感	松永佳子	東邦大学医学部看護学科紀要、(20)、28-36	2007
75	「親となる力」を形成する過程の分析 初回健診で妊婦と助産師はどのような関係にあるのか (Analysis of Forming the Ability to Become a Parent:What Relation is Established Between a Pregnant Woman and a Midwife in the Initial Checkup?) (英語)	藤井真理子、日隈ふみ子、坪田明子	人間看護学研究、(5)、73-79	2007
76	滋賀県における在日ブラジル人女性の妊娠・出産・産後のケア に対する調査	高橋里支、古川洋子、正木紀代子、芦田美 樹子、大林露子	人間看護学研究、(5)、57-71	2007
77	児童虐待に関わる周産期病棟・NICU 看護職者に求められるコン ピテンシー 沖縄県看護職者の経験と認識	前田和子、山城五月、下中壽美、上田礼子、 原健太郎、宮澤純子	沖縄県立看護大学紀要、(8)、39-47	2007
78	岩手県内で出産した妊婦の助産師に対する認知と期待	蠟崎奈津子、安藤明子、角川志穂、遊田由 希子、野口恭子、福島裕子、石井トク	岩手県立大学看護学部紀要、9、65-76	2007
79	助産師教育における技術教育方法の検討 入学時の看護技術の 習得状況と学習過程	野口純子、竹内美由紀、宮本政子	香川県立保健医療大学紀要、3、87-95	2007
80	本学学生の分娩助産技術習得のプロセスとそれに応じた臨床指 導のありよう	堀内寛子、服部律子、谷口通英、布原佳奈、 名和文香、宮本麻記子	岐阜県立看護大学紀要、7 (2)、9-17	2007
81	本学における助産実習での学び内容	服部律子、堀内寛子、谷口通英、布原佳奈、 名和文香、宮本麻記子	岐阜県立看護大学紀要、7 (2)、3-8	2007
82	父親に対する育児指導が母子退院1か月後の父親の育児参加に与 える影響	谷野祐子、小野恵美、朝比奈七緒、大塚志 乃ぶ、森谷美智子、藤井美穂子、松井典子	母性衛生、48 (1)、90-96	2007
83	立ち会い分娩後の夫の意識に関する研究	中島通子、牛之濱久代	母性衛生、48 (1)、82-89	2007
84	大学・短大専攻科・専門学校における助産師教育の実態と分娩 介助・継続事例実習指針 到達状況の比較および分娩助産・継続事例実習指針	渡邊典子、小田切房子、熊澤美奈好、江幡 芳枝、黒田緑、全国助産師教育協議会分娩 実習改善検討委員会	助産雑誌、61 (4)、344-351	2007
85	精神科診断医としての日本の助産師 case vignette への DSM- IV 気分および不安障害評価基準の応用 (Japanese midwives as psychiatric diagnosticians: Application of criteria of DSM-IV mood and anxiety disorders to case vignettes) (英語)	Yamashita Harue, Ariyoshi Akiyo, Uchida Hisae, Tanishima Harue, Kitamura Toshinori, Nakano Hitoo	Psychiatry and Clinical Neurosciences、61、 (3)、226-233	2007
86	看護教育研究 助産師教育におけるコア内容の検討 デルファ イ法に準じた認識調査から	亀田幸枝、島田啓子、北川眞理子、佐藤弘子、 高橋弘子、平澤美穂子、野田洋子、全国助 産師教育協議会教育制度委員会	看護教育、48 (5)、442-447	2007
87	姑から学んだ助産師業、そして自分が生きた道：三浦和子姉の語 り	灘 久代	日本助産学会誌、21 (1)、40-51	2007
88	日本における病院勤務助産師のバーンアウトに関する研究	秋月 百合、藤村 一美	日本助産学会誌、21 (1)、30-39	2007
89	助産所から病院搬送となった女性を支える助産ケア	今村朋子	聖路加看護学会誌、11 (1)、68-75	2007
90	助産師学生の受け持ちを承諾するとき 幼稚園児母親対象の調 査結果より	鈴木 由美	日本ウーマンズヘルス学会誌、6、95-103	2007
91	誰にお産をとりあげてほしいのか 幼稚園母親対象の調査結果より	鈴木 由美	日本ウーマンズヘルス学会誌、6、87-94	2007

92	受胎調節指導 病院勤務助産師の認識と実践能力	山崎由美子、久保田隆子、中山和美、石原昌、秋月百合、寺田眞廣	母性衛生、48 (2)、253-261	2007
93	市町村の母子保健事業における助産師活用の実態 地域の異なる2県の比較からみた特徴	宮岡久子、内宮律代、中村千穂子	母性衛生、48 (2)、246-252	2007
94	10代妊婦に対する外来でのピア交流活動を含めた支援の試み	小川 久貴子、清水 千春、柳澤 陽香、恵美 須文枝、清水千春、村田里美	助産雑誌、61 (9)、787-793	2007
95	学生がとらえたモラル・ハラスメント：助産師学生の男女間精神的暴力に関する講義より	鈴木 由美	桐生短期大学紀要、(18)、131-136	2007
96	双子を持つ母親の退院後1か月間の育児体験	藤飯美穂子	日本助産学会誌、21 (2)、77-86	2007
97	周産期の死の「望ましいケア」の実態およびケアに対する看護者の主観的評価とその関連要因	米田昌代	日本助産学会誌、21 (2)、46-57	2007
98	国際救援活動および開発協力事業において助産師に期待される能力 国際救援・開発協力を経験した助産師が必要性を認識した能力	鈴木幹子、鈴木美恵子	日本赤十字武蔵野短期大学紀要、(20)、51-60	2007
99	分娩第1期に病院勤務助産師が実践しているケア	戸澤陽子、小林康江	母性衛生、48 (4)、577-583	2008
100	長期にわたる助産院実習における助産師学生の経験からの学び	安積陽子、吉田香奈子、高田昌代、平河勝美	神戸市看護大学紀要、12、11-19	2008
101	A 市における育児期にある女性の保健行動について	大槻 優子、石村 由利子、飯野 伸子、堀田 久美、青柳 優子	医療看護研究、4 (1)、89-94	2008
102	学士課程の助産学生の職業アイデンティティの形成過程について：助産実習での体験に焦点を当てて	小泉 仁子、太田 奈美、宮本 眞巳	医療看護研究、4 (1)、64-71	2008
103	地域開業助産師の助産技術に関する研究 - 下腹部に円盤状に盛り上がった部分を発見し、常位胎盤早期剥離が疑われた事例 -	重西 桂子、吉永 茂美、岡崎 愉加、光岡 美智子	岡山県立大学保健福祉学部紀要、14、73-79	2008
104	助産学実習における助産診断・技術の到達度と自己評価能力	菊地 圭子、遠藤 恵子、西脇 美春	山形保健医療研究、11、83-92	2008
105	就職後1カ月と3カ月に新人看護者が感じる職務上の困難と欲しい支援	唐澤由美子、中村恵、原田慶子、太田規子、大脇百合子、千葉真弓	長野県看護大学紀要、10、79-87	2008
106	助産師学生の自己評価における分娩介助10例終了後の到達度	唐沢 泉	岐阜医療科学大学紀要、(2)、89-96	2008
107	本学における助産師教育の現状と課題：4年制大学移行後、2年間の周産期実習の現状から	岩崎 和代、松永 佳子、中北 充子、藤本 薫、深澤 洋子、齋藤 益子	東邦大学医学部看護学教科紀要、(21)、34-43	2008
108	日本における産み育て支援システムの構築	古川洋子	人間看護学研究、(6)、71-76	2008
109	地域助産師のアイデンティティ構築に向けて：山梨県における過去12年間の地域助産師活動の分析から	坂上 玲子、伏見 正江、山下 貴美子、米倉 弥生、坂上 玲子、伏見 正江、山下 貴美子、米倉 弥生	山梨県立看護大学短期大学部紀要、13 (1)、1-13	2008
110	「継続ケア」とはどのようなケアなのか？- 継続ケアに関するレビューの結果より	竹原 健二、北村 菜穂子、三砂 ちづる、箕浦茂樹	助産雑誌、62 (5)、443-446	2008
111	助産師の自律性 仕事に取り組み意識との関係	望月千夏子、湯舟邦子、石原昌	日本ウーマンズヘルス学会誌、7、157-164	2008
112	日本における近代産婆の職業倫理についての一考察：明治期の産婆テキストの比較を通して	柳原 真知子、大石 時子、林 桂子	天使大学紀要、8、73-83	2008
113	会陰保護術における助産師の手掌にかかる圧力	中川 有加	日本助産学会誌、22 (1)、49-64	2008
114	緊急帝王切開分娩した女性の陣痛、手術および産褥1週間の体験 (Women's experiences of labor, surgery and first postnatal week by an emergency cesarean section) (英語)	横手 直美	日本助産学会誌、22 (1)、37-48	2008
115	産褥早期の母子が退院する際の助産師の気がかりと対応	山口 江利子、高橋 弘子、山下 恵、岡田 由香、神谷 祺子	日本保健科学学会誌、11 (1)、5-11	2008
116	市町村地域の母子保健業務における常勤助産師を雇用する必要性 (The efficacy of employing full-time midwives in community maternal and child health services) (英語)	ujiko OMINE、Yoko TAMASHIRO、Mitsue NAKAMURA、Tugiko GIMA、Miyoko UZA、Kiyoko KAMIBEPPU	民族衛生、74 (4)、192-204	2008
117	産婦人科病棟の閉鎖・縮小に伴う問題状況と今後の課題 - 青森県内の助産師への調査結果からの考察	高橋 佳子、八嶋 三由紀、杉山 淳子	助産雑誌、62 (7)、620-627	2008
118	病産院における子育てを見据えた産褥期の支援の実態と助産師の役割認識	唐田 順子	母性衛生、49 (2)、357-365	2008
119	A 県における新生児訪問指導担当職員の現況について	江守 陽子、橋本 美幸	母性衛生、49 (2)、312-318	2008
120	低出生体重児を出生した母親とドメスティック・バイオレンス (DV) との関連	藤田 景子、高田 昌代	日本新生児看護学会誌、14 (2)、6-14	2008
121	NICU における母乳育児支援の効果 母親たちの声から学んだことのケア	江南宣子、脇田満里子、橋本綾、有城利子	近畿新生児研究会誌、(17)、55-59	2008
122	「母乳代用品の販売流通に関する国際基準」(International Code of Marketing of Breast-Milk Substitute) に対する助産師の認識と施設の支援状況、および母乳率の関係	栗野雅代 島田啓子	日本母乳哺育学会雑誌、2 (2)、93-102	2008
123	鳥根県の助産師教育の始まりとその変遷	灘 久代、狩野 鈴子	日本助産学会誌、22 (2)、249-259	2008

124	母乳育児の継続に影響する要因と母親のセルフ・エフィカシーとの関連	中田 かおり	日本助産学会誌、22 (2)、208-221	2008
125	産科診療所に勤務する看護職の就業継続意志に影響を与える要因	田所 由利子	日本助産学会誌、22 (2)、198-207	2008
126	臨床指導者が分娩介助初期の学生に期待する学びの構造	菱沼 由梨	日本助産学会誌、22 (2)、146-157	2008
127	母親の出産に参加した子どもの体験とその意味	藏本 直子	日本助産学会誌、22 (2)、124-135	2008
128	社会的因子からみた周産期死亡率・妊産婦死亡率の検討 - 助産師充足率を中心に	宮本 康成、三宅 馨、宮田 智价	ペリネイタルケア、27 (12)、1250-1252	2008
129	分娩取り扱いと人的資源からみた産科診療の現状	大賀 明子、勝川 由美、藤原 友紀子、永井 祥子、坂梨 薫	母性衛生、49 (4)、450-459	2009
130	ケアの場における癒しの特徴 - 看護師 / 助産師が実践の場で癒された体験からの考察	樋口佳栄	日本赤十字看護大学紀要、(23)、9-17	2009
131	助産コース修了生からの教育評価	山海 千保子、加納 尚美、梶原 祥子、島田 智織	茨城県立医療大学紀要、14、155-162	2009
132	助産師教育を担当する教員が考える将来の助産師教育	唐沢 泉、大室 律子	岐阜医療科学大学紀要、(3)、185-193	2009
133	地域開業助産師の助産診断・技術のポイント - 長時間立位で努まし、膝壁裂傷と血腫形成がおこった事例 -	重西 桂子、岡崎 愉加、吉永 茂美	岡山県立大学保健福祉学部紀要、15、65-72	2009
134	遠隔地在住妊婦の分娩に対する不安	伊藤 由美、木村 瑞恵	看護総合科学研究会誌、11 (2)、25-31	2009
135	4か月児をもつ母親の母乳育児の実施に関連する要因の検討	村松寛子、河村奈美子、山内まゆみ、加藤 登紀子	日本地域看護学会誌、11 (2)、68-73	2009
136	明治期における群馬県の産婆養成のはじまり：津久井織の個人史から	佐々木 かほる	群馬県立県民健康科学大学紀要、4、1-11	2009
137	出産後3年以内の女性の尿失禁と出産との関連性：尿失禁予防と改善に向けた助産師の役割	河内 美江	日本看護研究学会雑誌、32 (1)、47-57	2009
138	助産所で妊婦に対して実施されているケアに関する質的研究 助産所ケアの“本質”とはどのようなものか	竹原健二、岡本菜穂子〔北村〕、吉朝加奈、三砂ちづる、小山内泰代、岡本公一、箕浦 茂樹	母性衛生、50 (1)、190-198	2009
139	新生児の沐浴技術における児頭固定の早期習得に関する研究	今田 葉子、齋藤 真、永見 桂子、村本 淳子	母性衛生、50 (1)、165-173	2009
140	病院や診療所に勤務する助産師の専門職としての自律性：分娩期の実践能力および医療過誤に対する姿勢との関連	山崎 由美子	母性衛生、50 (1)、102-109	2009
141	豊かな出産体験をもたらす助産とは：出産体験尺度 (CBE-scale) による調査	市川 きみえ、鎌田 次郎	母性衛生、50 (1)、79-87	2009
142	ハイリスク児の母親とかかわる助産師の体験	木村 晶子	日本助産学会誌、23 (1)、72-82	2009
143	経験10年以上の助産師の産婦ケアにおける経験と重要な着目情報との関連	正岡 経子、丸山 知子	日本助産学会誌、23 (1)、16-25	2009
144	新人助産師の視座から捉えた分娩介助・継続事例実習指導の課題	中島 久美子、國清 恭子、阪本 忍、荒井 洋子、常盤 洋子	日本助産学会誌、23 (1)、5-15	2009
145	日本の乳頭亀裂への対処方法の歴史	八木友美、立岡弓子、山下 恵	日本母乳哺育学会雑誌、3 (1)、54-64	2009
146	乳房うっ積のケアの歴史とその意味	山下 恵、立岡弓子、八木友美	日本母乳哺育学会雑誌、3 (1)、47-53	2009
147	助産師による妊産婦健診時及び産後の面接が母性意識の発達に及ぼす効果について 胎児の超音波画像を話題の中心とした介入を行って	星 和子	仙台市立病院医学誌、29、99-113	2009
148	産婦の満足感に影響する要因についての一考察 ハーツバーグ理論を用いて	沼田彩、原田通子	日本ウーマンズヘルス学会誌、8 (1)、85-94	2009
149	イギリス、アメリカ、オランダの助産活動の特徴から日本の助産に向けて	吉田結希子、野口真貴子	日本ウーマンズヘルス学会誌、8 (1)、75-83	2009
150	病院勤務助産師の考えるバースプランへの効果的なかかわり	小川恵美子、村山より子、久米美代子	日本ウーマンズヘルス学会誌、8 (1)、43-50	2009
151	精神科診療所の通院している育児中の母親たちとのかかわり 集団精神療法の経験から	有竹 美智代、大橋美穂、室谷民雄	母性衛生、50 (2)、438-443	2009
152	生後4ヵ月時点における完全母乳哺育実施要因について：妊娠・出産をとらしての母子の長期的経過についての縦断的な検討より	佐々木 由理、竹原 健二、松本 亜紀、吉朝 加奈、嶋根 卓也、野口 真貴子、三砂 ちづる	母性衛生、50 (2)、396-405	2009
153	授乳に関する母親の問題解決行動を促すためのかかわりに関する研究 開業助産師のかかわりの原点	風間 仁美	母性衛生、50 (2)、373-380	2009
154	大学生の認識をもとにした高等学校における性教育の現状と課題 (第1報)	岡部 恵子、佐藤 孝子、大森 智美、久保 恭子、宍戸 路佳、安藤 晴美、坂口 由紀子	母性衛生、50 (2)、343-351	2009
155	分娩体位の知識と分娩台に対するイメージとの関連性	尾崎 恵美、高尾 純子、鶴川 まどか、西 美由紀、前田 智奈、中野 正博、高松 三穂子	バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌、11 (2)、41-52	2009
156	助産学生の月経に対する認識と重要視する初経教育の内容との関連性	伊藤 ゆき、小畑 茜、高野 舞衣、濱口 由起子、中野 正博、村上 由紀	バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌、11 (2)、33-39	2009

157	新生児蘇生法講習会受講者のセルフエフィカシーの変化に関する検討	水本 洋、末永 英世、吉岡 耕平、吉岡 孝和、秦 大資	日本周産期・新生児医学会雑誌、45 (4)、1322-1327	2009
158	出産直後の健康な新生児に対する鼻口腔咽頭吸引群と非吸引群の比較 経皮的酸素飽和度および心拍数に与える影響	高橋由紀	日本助産学会誌、23 (2)、261-270	2009
159	周産期ケアにおける助産師の手袋着用状況と個人的属性との関連	抜田 博子、谷口 千絵、恵美須 文枝	日本助産学会誌、23 (2)、208-216	2009
160	助産師による退院後の母乳育児ケアにおける観察視点	長田知恵子	日本助産学会誌、23 (2)、182-195	2009
161	北海道の産科施設集約による助産師業務についての研究—集約した病院に勤務する助産師の意見—	佐々木 壽子、林 佳子、良村 貞子、佐川 正	母性衛生、50 (4)、687-693	2010
162	臨床指導者の視座による分娩介助の「振り返り」という学びの意味	菱沼 由梨	母性衛生、50 (4)、637-645	2010
163	分娩直後のカンガルーケアが看護者に及ぼす影響の研究：M-GTAを用いた分析	山本 正子、松峯 美貴、竹内 正人、松峯 寿美	母性衛生、50 (4)、560-567	2010
164	助産師業務拡大に対する助産師の意識	亀崎 明子、田中 満由美、内垣内 玲衣奈、基 幸乃	山口県母性衛生学会誌、26、18-22	2010
165	日本赤十字武蔵野短期大学専攻科における助産師教育の変遷：日本の助産師教育の変遷をふまえて	神谷 桂、谷津 裕子、鈴木 美恵子	日本赤十字看護大学紀要、(24)、112-119	2010
166	妊娠期からの骨盤底筋機能不全予防アプローチ（ド・ガスケアアプローチ）の日本女性への活用性の検討	喜多 里己、谷口 千絵、村上 睦子	日本赤十字看護大学紀要、(24)、77-86	2010
167	妊婦のセルフケア行動を促す母子健康手帳の検討-妊娠および出産後の経過記録に対する助産師と母親の認識-	山崎 圭子、齋藤 益子、米山 万里枝、遠藤 俊子、石川 紀子	東邦大学医学部看護学科紀要、(23)、23-32	2010
168	看護職者の育児を開始する時期にある母親への思い	小山 掌子	岩手県立大学看護学部紀要、12、73-82	2010
169	地域での活動体験をもつ助産師の入院中の産褥期ケア	藤村 博恵、河原 加代子	日本保健科学学会誌、12 (4)、200-210	2010
170	当院のグリーフケアの実際と今後課題 死産児の母親の心理過程から考える	谷幸恵	三菱京都病院医学総合雑誌、16、23-26	2010
171	立ち会い分娩をした夫婦の助産師学生のかかわりに対する認識	上田恵子、穴田和子、浅生慶子、加藤絢子、小山麗、前田知恵美	西南女学院大学紀要、14、175-183	2010
172	胎児心拍陣痛図による分娩時リアルタイムマネジメントの院内助産への応用	松本 直樹、五味陽亮、新坂真実子、江良 澄子、長田 まり絵、鈴木永純、松本智恵子、高橋 幸男、山下 恵一	日本産婦人科学会関東連合地方部会誌、47 (1)、17-25	2010
173	妊娠期からの継続した心理的支援が産後女性への不安・抑うつに及ぼす効果	佐藤喜根子、佐藤祥子	母性衛生、51 (1)、215-225	2010
174	助産師の卒後教育に関する研究 助産師の卒後教育への必要性・時期・内容など	我部山キヨ子、岡島文恵	母性衛生、51 (1)、198-206	2010
175	産痛の「受容」と「回避」に関する医療提供者と医療消費者の態度	吉田和枝	母性衛生、51 (1)、99-110	2010
176	【多問題家族の妊娠・出産・子育てに寄り添う】中規模公立病院における福祉分娩の実際と課題 助産師外来の役割と地域連携の重要性	高谷若恵、安藤直美	助産雑誌、64 (5)、420-424	2010
177	NICUに入院していた子どもの母親をケアする助産師の体験を本質を探究する過程 研究者の内省を用いて	木村晶子	日本保健医療行動科学会年報、25、107-122	2010
178	助産師の不妊に関する意識と不妊治療の許容度	青柳 優子	日本助産学会誌、24 (1)、84-95	2010
179	継続受け持ち事例の女性にとって「支え」となった学生の関わりについて	荒木 美幸、中尾 優子、大石 和代	日本助産学会誌、24 (1)、65-73	2010
180	熟練助産師の分娩期における判断の手がかり	渡邊 淳子、恵美須 文枝	日本助産学会誌、24 (1)、53-64	2010
181	出産後3か月までの双子の母親が授乳方法を形成するプロセス	藤井美穂子	日本助産学会誌、24 (1)、4-16	2010
182	熟練助産師の分娩第1期におけるケアの特徴	渡邊 淳子、恵美須 文枝、勝野 とわ子	日本保健科学学会誌、13 (1)、21-30	2010
183	看護職が評価する不妊治療後の妊産婦とパートナーの心理的特性	我部山キヨ子	女性心身医学、15 (1)、111-119	2010
184	韓国の産後ケア施設の現状と課題：わが国への産後ケア施設導入に向けての考察	坂梨 薫、勝川 由美、白井 雅美、鍋田 美咲、大賀 明子、永井 祥子	母性衛生、51 (2)、482-489	2010
185	助産師は行う非侵襲的観察による分娩進行に関する判断	渡邊竹美、遠藤俊子	母性衛生、51 (2)、473-481	2010
186	出産・育児期にある助産師の就業継続に関する実態調査	北川 良子	母性衛生、51 (2)、416-424	2010
187	望まない妊娠を防止するための助産師の受胎調節指導活動：活性化のためのリカレント教育に関する研究	石走 知子、吉留 厚子、林 猪都子	母性衛生、51 (2)、329-335	2010
188	診療所の分娩記録を基にした羊水混濁の発生割合とその要因の分析	鈴木 江三子、吉村 正、沖野 幸、柳井晴夫、判治康代、加納尚美、毛利多恵子、廣瀬健	ペリネイタルケア、29 (7)、704-709	2010
189	夫立ち会い分娩時における支援の検討	徳能真由美、庄司聡美、高橋聡子、星和子	仙台市立病院医学誌、30、87-93	2010
190	パースプランに基づく出産が産後体験に与える影響と意味	多田井 佐代、野口真貴子、久米美代子	日本ウーマンズヘルス学会誌、9 (1)、86-92	2010
191	助産所での分娩介助実習における学び	渡邊淳子	日本ウーマンズヘルス学会誌、9 (1)、59-66	2010

192	助産師学生におけるドゥーラの役割の認知度と妊産婦の求めるケア内容との関連性	小野 詩織、染矢 知澄、吉川 加奈子、宮内美沙、村上 由紀、中野 正博	バイオメディカル・ファジィ・システム学会大会講演論文集、(23回)、89-92	2010
193	【産科医と助産師との連携はどこまでできる】個人施設における連携 個人産科施設と助産院との連携	土屋 清志	産科と婦人科、77 (10)、1208-1214	2010
194	災害発生時に看護職員が活用できるアクションカードの考案とその使用経験について	中川 経子、中尾 邦子、丸山 嘉一、山尾澄子、橋本加奈枝	日本集団災害医学会誌、15 (2)、210-217	2010
195	フリースタイル分娩に対する病院勤務助産師の見解	宮本 雅子、赤井 由紀子	日本助産学会誌、24 (2)、386-397	2010
196	Breast Awareness 支援のプログラム開発とプロセス評価	吉野 都、江藤 宏美	日本助産学会誌、24 (2)、375-385	2010
197	助産師による超音波検査の現状、認識、必要な教育	我部山 キヨ子	日本助産学会誌、24 (2)、366-374	2010
198	助産師の出産・育児と就業継続の関連要因：就業継続状況に焦点をあてて	北川 良子	日本助産学会誌、24 (2)、345-357	2010
199	継続事例実習で助産師学生に受け持たれた女性の学生実習に対する思いとその変化	福丸 洋子、落合 亮太、松坂 充子	日本助産学会誌、24 (2)、322-332	2010
200	島外出産をする女性へ助産師が行うケアの認識と実践	山本 由香	日本助産学会誌、24 (2)、294-306	2010
201	助産師が認識するネガティブサポートの構造	千葉 邦子	日本助産学会誌、24 (2)、238-251	2010
202	助産師が中期中絶のケアに携わることに対して感じる困難	高木 静代、小林 康江	日本助産学会誌、24 (2)、227-237	2010
203	母乳育児に対する父親の意識とその要因に関する研究：母親との比較から	榎本 恭子、梅野 貴恵、軽部 薫	母性衛生、51 (4)、730-737	2011
204	産・育児期にある助産師の仕事意欲に影響を及ぼす要因	北川 良子	母性衛生、51 (4)、684-693	2011
205	産科領域におけるメディカルアラームの導入に関する看護職員の意識調査	松藤 尋幹、渡邊 浩子、柳吉 桂子、我部山 キヨ子	母性衛生、51 (4)、676-683	2011
206	助産師の専門性に影響する要因：分娩期ケアの実践能力に焦点をあてて	谷田部 仁子	母性衛生、51 (4)、586-593	2011
207	助産師コース学生の喫煙の実態と助産師教育の課題：保健師コース女子学生との比較より	鷲尾 昌一、豊島 泰子、今村 桃子、西地 令子、大町 福美、竹元 仁美、井手 三郎、井手 信	日本循環器病予防学会誌、46 (1)、64-69	2011
208	臨床助産師の経験する倫理的問題の特徴 - 東海4県の調査結果より	杉浦 和子、太田 勝正、鈴木 千智	日本看護倫理学会誌、3 (1)、28-35	2011
209	学士課程で助産を選択する学生の分娩介助10例における学び-分娩介助実習体験を中心に	松井 弘美、永山 くに子、島田 啓子	富山大学看護学会誌、10 (1)、37-47	2011
210	日本における助産師の職務行動への影響要因	篠原良子	医療保健学研究、(2)、65-77	2011
211	わが国における助産師養成可能数の推定	前田 樹海	Journal of Tokyo Ariake University of Medical and Health Sciences= 東京有明医療大学雑誌、2、1-6	2011
212	NICU 入院中の児を持つ母親の搾乳に関する実態調査	立木 歌織、高橋 斉子、高木 友子、沼尾美津穂、天谷恵美子、金田陽子、寒河江かよ子、塚田祐子、藤川智子、角川志穂、小川朋子、齋藤良子、成田伸	自治医科大学看護学ジャーナル、8、125-132	2011
213	妊産婦に対する診療所勤務助産師からのネガティブサポート：助産師の認識に焦点をあてて	千葉 邦子	日本赤十字看護大学紀要、(25)、11-21、	2011
214	出産場所としての助産院（所）助産院（所）での出産が増えるために何が必要か？助産院（所）へのアンケート調査報告	遠藤 里美、宮内 清子、佐久間 夕美子、小山葉月、高祖麻美、加藤綾子、小幡早紀、佐藤千史	ベリネイタルケア、30 (3)、278-282	2011
215	産後早期退院の条件に関する嗜好と支援体制 医療職種別の視点から	坂梨 薫、勝川 由美、白井 雅美、鍋田 美咲、大賀 明子、永井 祥子	横浜看護学雑誌、4 (1)、71-77	2011
216	「妊婦のDV被害」の実態と産科医療スタッフの意識	川原 みちよ、中塚 幹也	母性衛生、52 (1)、147-159	2011
217	災害支援活動を行った看護職者のストレス反応と関連要因	小林 恵子、三澤 寿美、駒形 ユキ子、田中 浩之、大岡花巳、白倉透規、桑原孝子、長部タミ、渡邊良弘	日本災害看護学会誌、12 (3)、47-57	2011
218	周産期メンタルヘルスと子ども虐待対応に関する全国医療機関の取り組み	杉下 佳文、栗原 佳代子、古田 正代、池田 真理、山本 弘江、大塚 寛子、上別府 圭子	日本周産期・新生児医学会雑誌、47 (1)、86-91	2011
219	産褥ケアにおける助産師の「語り」から経験知を抽出するナラティブ分析	正岡 経子、丸山 知子	日本保健医療行動科学会報、26、158-168	2011
220	乳幼児をもつ母親への助産師によるナラティブ・アプローチの効果研究	川村 千恵子、森 圭子	日本保健医療行動科学会年報、26、104-117	2011
221	超音波検査法を含む妊婦健康診査に対する妊婦の認識と心理的影響-心拍数・唾液アミラーゼ・S T A Iによる助産師と医師の比較	和泉 美枝、羽太 千春、我部山 キヨ子	日本助産学会誌、25 (1)、36-44	2011
222	褥婦のバースプランの認識と出産満足度との関連に関する研究	佐藤 彰子、梅野 貴恵	日本助産学会誌、25 (1)、27-35	2011

223	「助産師による生命の誕生に関する授業」の評価 - 参加した親子の体験の記述を通して	丸山 彩香、黒川 寿美江、金子 美紀、山内 淳子、佐藤理恵、上野杏子、今村美代子、有森直子	学校保健研究、53 (2)、158-163	2011
224	low risk 妊婦に対する助産師外来における妊婦健診の安全性評価 (第1報)	町田 玉枝、石田 京子、吉村 栄子、伊藤 令子、徳原 多賀子、佐世 正勝	母性衛生、52 (2)、351-356	2011
225	乳児期にある孫をもつ祖父母に対する孫育児支援活動の実態と課題	石井 邦子	母性衛生、52 (2)、311-318	2011
226	生涯発達支援の観点からみた助産師の時間的展望の現状と職務満足度との関連	中垣 明美	母性衛生、52 (2)、294-302	2011
227	超音波診断法による妊婦への心理的影響：施行者及び出産歴による比較	和泉 美枝、羽太 千春、我部山 キヨ子	日本看護科学会誌、31 (3)、42-49	2011
228	育児開始期にある若年母の辛い体験を通じた変化	小川 久貴子、安達 久美子、恵美須 文枝	日本保健科学学会誌、14 (2)、63-76	2011
229	妊娠期女性のサプリメント利用の現状と認識	吉田結希子、野口真貴子、久米美代子	日本ウーマンズヘルス学会誌、10 (1)、59-67	2011
230	会陰保護と会陰切開についての歴史学的考察 産婆の誇りと産科医の特権	木村高子	日本ウーマンズヘルス学会誌、10 (1)、33-38	2011
231	羊水感染に影響を及ぼす助産技術の検証	金野亜樹、柳沢直子、伊東栄子、飯島浩之、八木淳二、久米美代子	日本ウーマンズヘルス学会誌、10 (1)、7-23	2011
232	開設者からみた助産所開設・運営の事例研究	谷口 千絵、村田 加奈子	医療と社会、21 (3)、295-307	2011
233	自然流産後の女性に対する看護ケアの実態とケアを提供した助産スタッフの満足度に関する研究 (英語)	Tsukamoto Yasuko, Shimoyama Hiroko, Yamaguchi Noriko, Masuda Akemi	Niigata Journal of Health and Welfare, 11 (1)、56-62	2011
234	祖母の役割 母親になる過程を支援をする祖母から受ける育児支援 (英語)	Misawa Sumi, Nakayama Kazumi, Machiura Michiko	Niigata Journal of Health and Welfare, 11 (1)、22-31	2011
235	看護大学生の進路選択と進路支援のニーズに関する実態	福岡 美紀、廣野 祥子、長田 京子、森山美香、大森眞澄、木村真司	鳥根大学医学部紀要、34、7-24	2011
236	助産師の職業的アイデンティティに関連する要因	佐藤 美春、菱谷 純子	日本助産学会誌、25 (2)、171-180	2011
237	『学習ニーズアセスメントツール-助産師用-』の開発：助産師のキャリア発達に向けた看護継続教育の提供	中山 登志子、舟島 なをみ	日本看護研究学会雑誌、34 (5)、1-10	2011
238	助産実習における分娩第1期の学生の学び	清水 嘉子、宮澤 美知留、松原 美和、藤原 聡子、上森 友記子	母性衛生、52 (4)、584-592	2012
239	産褥期の女性に対する DV スクリーニングと支援の実際と評価	長坂 桂子、井上 梢、堀井 泉、宮川 絵美子、梅田 優美、瀧 真弓、片岡 弥恵子	母性衛生、52 (4)、529-537	2012
240	分娩介助実習における学生の学びについての教育評価	松井 弘美、永山 くに子	母性衛生、52 (4)、481-491	2012
241	月経変化の原因探索尺度の作成の試み	柴田 恵子、井上 真弓、森 和代	日本看護学会論文集、母性看護、(42)、84-87	2012
242	長期入院妊婦への妊娠時期に応じた指導パンフレット導入の取り組み：妊婦と共につくる成長記録の効果	望月 智子、岩下 緑	日本看護学会論文集、母性看護、(42)、13-16	2012
243	大学1年生は今までに受けた性教育の内容と性の知識・意識・行動の実態および性教育の課題	亀崎 明子、田中 満由美、村上裕紀	山口県母性衛生学会誌、28、6-12	2012
244	大学院修士課程での助産師教育に対する看護学生の意見	柴田美佳、小林眞生、田村彩乃、コリー紀代、荒木奈緒、荻田珠江、佐川正	北海道産科婦人科学会誌、56 (1)、11-20	2012
245	臨地実習における看護学生による看護行為の正当化根拠	久藤 克子	岡山県立大学保健福祉学部紀要、18、45-53	2012
246	臨地実習における分娩介助時の学生の学びとその変化	宮澤美知留、清水嘉子、松原美和、藤原聡子、上森友記子、西野自由理	長野県看護大学紀要、14、13-23	2012
247	岩手県における助産師教育課程に関するニーズ調査	木地谷 祐子、安藤 広子、水野 仁子、金谷 法子、アンガホッフア 司寿子、蛸崎 奈津子、野口 恭子、福島 裕子、藤田 美香	岩手県立大学看護学部紀要、14、49-59	2012
248	看護師経験をもつ大学院助産課程を修了した新人助産師の臨床での体験	佐々木美喜	日本赤十字看護大学紀要、(26)、79-89	2012
249	母子健康手帳に記載する分娩の経過項目の特記事項欄に対する助産師の見解と実情	山本 由香	日本赤十字看護大学紀要、(26) 71-78	2012
250	主体的な出産・育児に向けて地域助産師が行う妊娠期の支援に関する研究	武田 順子	岐阜県立看護大学紀要、12 (1)、3-15	2012
251	助産外来における助産師の実践能力評価基準の開発：客観的臨床能力試験 OSCE を活用して	松永 佳子、山崎 圭子、遠山 珠未、久保絹子、有賀いずみ、高橋慶子、齋藤益子	東邦看護学会誌、(9)、9-16	2012
252	看護学生の乳児期栄養法に関する認識調査 学年間の比較	松井由美子	日本母乳哺育学会雑誌、5 (2)、59-67	2012
253	隠岐の島で生活する妊婦の妊娠・出産への想い (第2報) 離島に住む妊婦を支える助産師の役割について	西 夢貴、原 恵美、藤田 小矢香、西村 正子	助産雑誌、66 (3)、254-261	2012
254	子どもを希望する統合失調症患者の看護支援に関するケアガイドの作成と評価	澤田 いずみ、宮島 直子、高橋 由美子、今野美紀、吉野淳一、平塚志保、影山セツ子、丸山知子	日本看護学会論文集、精神看護、(42)、133-136	2012
255	勤務助産師が直面する助産学実習指導上の問題	宮本 涼子	日本看護学会論文集、看護教育、(42)、88-91	2012

256	総合周産期母子医療センターにおける助産ケア必要量に関する調査	片桐 麻州美、井本 寛子、石川 紀子、瓜田 久美子、中込さと子、常田裕子、遠藤俊子	日本看護学会論文集・看護管理、(42)、526-529	2012
257	産科集約化を体験した助産師の困難	小坂 奈保子	日本看護学会論文集・看護管理、(42)、447-449	2012
258	急性期病院看護職員の自己効力感とその影響要因に関する調査研究(第1報) 影響要因尺度の作成と一般性セルフ・エフィカシーとの関係性	東山 久美	日本看護学会論文集・看護管理、(42)、316-319	2012
259	子育て中の看護師の職業継続に関する要因調査	中川 光子、須栗 裕子、大平 律子、高山裕子、岩崎佳子	日本看護学会論文集・看護管理、(42)、212-215	2012
260	出生前診断相談を受ける妊婦のニーズ : 一般病院妊婦健診受診者を対象とした分析	荒木 奈緒	母性衛生、53 (1)、73-80	2012
261	お産における感染対策の重要性 日常から災害時までの医療材料の役割 日本の助産所における感染対策の現状	中村 麻子	母性衛生、53 (1)、11-15	2012
262	分娩介助の振り返り場面における指導助産師のかかわり	磯山 あけみ、森本 薫、海老根 純子	助産雑誌、66 (5)、424-430	2012
263	正常分娩における助産師が行った人工破膜の実態とその後の転帰	園田 希、堀内 成子	日本助産学会誌、26 (1)、72-82	2012
264	授乳期の乳房診断アセスメントツールの開発: - 項目精選 -	長田 知恵子、堀内 成子	日本助産学会誌、26 (1)、61-71	2012
265	出生前診断で胎児異常の診断を受けた母親に関わった助産師の体験: - 倫理的ジレンマの構造 -	渋谷 えみ	日本助産学会誌、26 (1)、16-27	2012
266	【保健・医療現場におけるリスクコミュニケーション】<焦点4>子育て支援 子育て支援について助産師による子育て支援実践活動から考える	川村 千恵子	日本保健医療行動科学会年報、27、89-96	2012
267	胎児心拍数モニタリングにおける外側法無線式プローブの利点および問題点に関する検討	泉 祐子、佐藤 祥子、石田 京子、伊藤 令子、佐世 正勝	母性衛生、53 (2)、383-388	2012
268	助産学実習における助産実践能力の習得に関する研究	大滝 千文、遠藤 俊子、竹 明美、小林 康江、齋藤 益子、清水 嘉子、村本 淳子、新道 幸恵	母性衛生、53 (2)、337-348	2012
269	産科に携わる医療職の職務満足度に影響する要因: 産婦人科医師、助産師、看護師の比較	飯尾 祐加	母性衛生、53 (2)、296-302	2012
270	第1子出産前後の女性がパートナーに対して抱く愛情と出産の様相との関連	三上 由美子	母性衛生、53 (2)、287-295	2012
271	妊婦の観点からみた助産外来を受診することの意味	高木静代、小林康江、小室真祐子、奥田靖彦、平田修司	母性衛生、53 (2)、242-249	2012
272	家庭訪問による産後うつ病スクリーニングにおいて訪問員が抱えるストレスとその要因	三品 浩基、菊池 由紀子、檜崎 純子	保健師ジャーナル、68 (7)、610-615	2012
273	退院後の褥瘡が病棟で受ける保健指導の実態と満足度	生駒栄子、中山雅美、小林希、下村美和、塚田裕子	長野赤十字病院医誌、25、70-74	2012
274	母性看護学実習において看護学生が子期せぬ状況を体験することに対する実習指導者の関わり	主演治子、刀根洋子、鈴木祐子	日本ウーマンズヘルス学会誌、11 (1)、57-65	2012
275	大学助産師養成課程における性教育実習の課題	宮本涼子、関口史絵、高橋弘子	天使大学紀要、13 (1)、19-31	2012
276	昭和初期の北海における拓殖産婆の活動	宮本涼子、前田尚美、須藤桃代、高橋弘子	天使大学紀要、13 (1)、5-18	2012
277	鹿児島県の産科医療機関の現状と種子島への助産師派遣: 2病院の取り組み	黒江 奈央、吉留 厚子	日本農村医学会雑誌、61 (4)、618-624	2012
278	電話相談からつながる助産師の支援: 母乳・授乳に関する相談内容に着目して	筒井 真弓、十河 幸恵、池添 紀美代、池添 紀美代、真鍋由紀子、野口純子、中塚幹也	香川母性衛生学会誌、12 (1)、61-67	2012
279	母乳・授乳に関する電話相談内容の分析	筒井 真弓、池添 紀美代、十河 幸恵、関亦頼子、高井佳美、加藤淑美、真鍋由紀子、野口純子	香川母性衛生学会誌、12 (1)、56-60	2012
280	香川県助産師会における電話相談事業の検討: 「すこやか助産師センター」での電話相談と育児支援	野口 純子、十河 幸恵、筒井 真弓、池添 紀美代、高井佳美、関亦頼子、加藤淑美、真鍋由紀子	香川母性衛生学会誌、12 (1)、52-55	2012
281	助産師の出産体験による働くことへの意識変化	岡津 愛子、松村 恵子	香川母性衛生学会誌、12 (1)、47-51	2012
282	母親の精神的ストレスが母乳成分に及ぼす影響	岡津 愛子、松村 恵子	香川母性衛生学会誌、12 (1)、38-46	2012
283	被災地岩手における舌・喉頭矯正手術(CGL)症例	山本正子、手島祐香里、渡邊寛子、伊藤怜子、宗祥子	日本舌嚥症学会誌、18、31-34	2012
284	助産学の学生が分娩介護実習から学ぶこと(英語)	Matsui Hiroimi, Nagayama Kuniko	富山大学医学雑誌、23 (1)、17-25	2012
285	院内助産開設に関わる要素 院内助産モデルケースの聞き取り調査から	渡邊 めぐみ、林 猪都子、乾 つぶら	日本助産学会誌、26 (2)、256-263	2012
286	早産児を出産した母親が母乳育児を通して親役割獲得に向かう過程	田中 利枝、永見 桂子	日本助産学会誌、26 (2)、242-255	2012
287	はじめて育児をする母親の産後1か月における母親としての自信をつける介入	窪田 陽子、小林 康江	日本助産学会誌、26 (2)、232-241	2012

288	授乳期の乳腺炎診断アセスメントツールの開発 信頼性と妥当性の検討	長田 知恵子	日本助産学会誌、26 (2)、179-189	2012
289	乳幼児に虐待する母親の母乳育児	井上明子、松村恵子	日本母乳哺育学会誌、6 (2)、52-58	2012
290	日本助産師会会員における妊婦への食生活支援に関する調査：「妊産婦のための食生活指針」の活用状況を中心に	瀧本 秀美、米澤 純子、島田 真理恵、加藤 則子、横山 徹爾	日本公衆衛生雑誌、60 (1)、37-46	2013
291	妊婦受け入れ基準インデックスの適応の検証	岡田智恵、江藤宏美、片岡弥恵子、柳井晴夫	母性衛生、53 (4)、505-514	2013
292	授乳期の母親の手洗い行動	河田 みどり、池邊 敏子	千葉科学大学紀要、(6)、111-118	2013
293	産後の疲労と授乳の関連	河田 みどり、池邊 敏子	千葉科学大学紀要、(6)、103-110	2013
294	看護基礎教育卒業後の看護教育評価と高度看護専門職意識に関する調査	原田 さゆり、富田 早苗、山下 亜矢子、岡崎 諭加、荻 あや子、杉村 寛子、山口 三重子	岡山県立大学保健福祉学部紀要、19、107-115	2013
295	助産師による会陰切開・会陰縫合の実態調査	佐尾聡華、林和奈、伊藤由美、コリー紀代、西川正	北海道産科婦人科学会誌、57 (1)、62-74	2013
296	助産実習における学生の助産技術の修得：分娩助例数による達成状況と指導者との評価比較	清水 嘉子、松原 美和、宮澤 美知留、藤原 聡子、西野 自由理、上森 友記子	長野県看護大学紀要、15、1-13	2013
297	二次救急医療施設における小児心肺蘇生研修後の受講者の意識：自記式質問紙調査より	倉田 千晶、太田 万理、西村 聖子	日本看護学会論文集・小児看護、(43)、153-156	2013
298	産科医療補償制度導入後の助産師の対応と意識の実態	久保田 隆子	日本看護学会論文集・看護総合、(43)、271-274	2013
299	地域助産師が行う「女性の主体性を引き出す妊娠期の支援プログラム」の取り組みに関する研究	武田 順子、服部 律子	岐阜県立看護大学紀要、13 (1)、81-92	2013
300	虐待予防のために母子の継続支援を行う助産師と保健師の連携システムの記述的研究	大友 光恵、麻原 きよみ	日本看護科学会誌、33 (1)、3-11	2013
301	妊婦のマイナートラブル評価尺度作成の試み：妊婦のセルフケア向上をめざした評価指標の作成	植松 紗代、眞鍋 えみ子	母性衛生、54 (1)、147-155	2013
302	母体搬送時や搬送となった女性にかかわる際に助産師が体験する困難さ	西方 真弓、佐山 光子、大野 とも子	母性衛生、54 (1)、130-137	2013
303	助産師の継続支援による「母乳育児の満足度」に関連する要因	森本 眞寿代、永松 美雪	母性衛生、54 (1)、43-50	2013
304	院内助産システム導入を見据えたA病院の分娩体制に関する意識調査：産科医療を存続させるために今、助産師にできること	松川 昭代、和久田 幸代、田末 かつ江、坪倉浩美	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、80-83	2013
305	母乳育児相談外来担当助産師の自己・他者評価による母乳ケア能力の現状と課題：【医療機関における助産ケアの質評価】第2版を用いて	佐藤 みどり、斉藤りさ、測上 幸子	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、76-79	2013
306	助産師の経験年数によるお産の比較：お産の経過と産婦及び児の健康状態に関して	田草川 貴子、今村 久美、望月 桂子、児玉 かな絵、押領司民	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、72-75	2013
307	勤務助産師の院内助産システム開設に対する不安内容の検討	石岡 洋子、甲斐 洋子	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、68-71	2013
308	「気になる」を感じた場面における助産師の対人認知過程	中野 真希、吉村 恵美子	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、64-67	2013
309	心理・社会的リスクファクターを持つ妊婦の特徴とソーシャルサポート	赤塔 有里香、中山 奈美子、伊藤 由香、公文 典子	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、11-14	2013
310	助産師外来導入前後の妊婦の体重管理と分娩経過の比較	小安 美恵子、牧内 眞理子、志村 愛、早川加奈子、乙津町子、陶守敬二郎、茂樹薫	日本看護学会論文集・母性看護、(43)、7-10	2013
311	助産師が医師と協働で妊婦健康診査を行うことについて抱く思い	鷹巣 結香里	日本助産学会誌、27 (1)、111-119	2013
312	パースレビューを実施した助産師学生の経験と教育課題の検討	荻田 珠江、中澤 貴代、安積 陽子、荒木 奈緒、平塚 志保	日本助産学会誌、27 (1)、72-82	2013
313	助産師の産科医師との協働に関する研究：助産師の専門職的自律性に焦点をあてて	石引 かずみ、長岡 由紀子、加納 尚美	日本助産学会誌、27 (1)、60-71	2013
314	産後1カ月が経過した経産婦の母乳育児に対する決定要因の検討	森一恵	日本助産学会誌、27 (1)、48-59	2013
315	胎児心拍数モニタリングにおける一過性徐脈の判読に有用な「一過性徐脈の判読のための早見表」の作成	田中 教文、數佐 淑恵、三好 博史	現代産婦人科、61 (2)、291-295	2013
316	周産期における助産師の就労に関する研究動向と課題	河内 浩美、渡邊 典子、久保田 美雪、小林 正子、小林 美代子	母性衛生、54 (2)、370-378	2013
317	不妊治療後の産婦に対する助産師の実践と不妊に関する意識および不妊治療の許容度との関連	青柳 優子	母性衛生、54 (2)、325-334	2013
318	母乳栄養率・母乳育児支援の出産施設別の比較と母親が望む母乳育児支援の検討	河原 聡美、梅野 貴恵	母性衛生、54 (2)、317-324	2013
319	助産所における分娩時の個人防護具着用状況とその関連要因	中村 麻子、楠見 ひとみ、遠藤 英子	日本環境感染学会誌、28 (6)、355-360	2013
320	母乳育児に関する文献研究	尾筋 淑子、松村 恵子	香川母性衛生学会誌、13 (1)、51-60	2013
321	院内助産システムに関する実態調査と今後の課題：平成22年度日本看護協会助産師職能委員会報告より	大西 稚佳、永峰 啓子、丹羽 美裕紀	香川母性衛生学会誌、13 (1)、33-36	2013

322	助産師による乳幼児虐待予防に向けた支援の検討	井上 明子、石原 留美、松村 恵子	香川母性衛生学会誌、13 (1)、27-32	2013
323	うつ病・パニック障害合併症妊婦の漢方治療の効果 半夏厚朴湯・抑肝散を中心に	塩田敦子、鈴木恵子、秦利之	香川母性衛生学会誌、13 (1)、21-26	2013
324	ドメスティック・バイオレンスの被害女性の回復を促す周産期の助産ケア	藤田景子	日本助産学会誌、27 (2)、247-256	2013
325	デルファイ法による新生児蘇生法インストラクターのコンピテンシー	谷口 千絵、木下 千鶴、齋藤 有希江、安藤 弘子、恵美須 文枝、高田 昌代、和田 雅樹、田村 正徳	日本助産学会誌、27 (2)、214-225	2013
326	看護教育研究 女子看護大学生における母乳および母乳育児についての理解度と実習における母乳育児支援の学習体験意図の関連	坂元 有沙、入山 茂美	看護教育、54 (12)、1120-1124	2013
327	夫立ち会い出産の現状と夫婦の意識調査：分娩時に必要な助産師による支援	松永 由香	日本農村医学会雑誌、62 (5)、779-784	2014
328	入院中のハイリスク妊婦に対する看護者のケアリング行動の実践状況	増田 裕美、濱 耕子	母性衛生、54 (4)、643-653	2014
329	新潟県における病院に勤務する助産師の就労状況に関する調査	久保田 美雪、渡邊 典子、小林 正子、河内 浩美、小林 美代子	母性衛生、54 (4)、636-642	2014
330	助産師の仕事意欲と仕事ストレスの関連：産科単科病棟と混合病棟での比較	石倉 弥生、三瓶 まり、比良 静代、松浦 志保	母性衛生、54 (4)、588-594	2014
331	助産師の周産期の喪失ケア体験に基づいた卒後教育プログラムにおけるニーズの検討	岡永 真由美、岡村 仁	母性衛生、54 (4)、556-562	2014
332	出産体験のとらえ方に影響する要因についての初産婦経産婦の比較検討：出産時のコントロール感、助産師のサポートに焦点をあてて	大田 康江、鳥袋 香子	母性衛生、54 (4)、539-547	2014
333	入院中の気分の変化と胎児への愛着形成 超音波装置を用いた看護介入前後の比較	中川幸代、永田智子、川元恵子、藤本美由紀、佐世正勝	山口県母性衛生学会誌、30、8-13	2014
334	助産院において子供の出産に立ち会った男性の経験（英語）	Kojima Rieko	関西看護医療大学紀要、6 (1)、12-29	2014
335	NICUにおける地震災害時の初期対応：行動表を用いた実働訓練の評価	大甫 恵、平田 久視子、山本 亜希子	日本看護学会論文集・小児看護、(44)、122-125	2014
336	ハイリスク妊産婦へのケアに関わる助産師の割り切れない思いの特徴	川越真衣、坂野美希子、松尾澄佳、鮫島雅子	日本看護倫理学会誌、6 (1)、68-74	2014
337	助産師主導の妊産婦継続ケアの有用性に関する文献検討 日本と諸外国との比較	石引 かずみ、田口陽子、猪股理恵、加納 尚美	茨城県立医療大学紀要、19、1-13	2014
338	助産学生の妊産婦へのほめ言葉に関する調査	富安俊子、佐藤道子、伊藤純子	活水論文集（看護学部編）、(2)、23-32	2014
339	助産学教育に関する研究 助産学生の職業的アイデンティティの実態と関連要因	中島由紀子、山内葉月	保健科学研究誌、(11)、39-48	2014
340	A 県看護協会における教育研修の企画に関する一考察：2年間の研修受講者のアンケート調査結果から	佐藤 隆子、佐藤 祥子、遠藤 康、伊藤京子、荒井裕子、高橋京子	日本看護学会論文集・看護教育、(44)、220-223	2014
341	母性看護学実習における卒業時の看護技術到達度の実態：母性看護技術到達度が臨地実習で未経験項目の実態調査	矢野 貴美子、笠谷 ひとみ	日本看護学会論文集・看護教育、(44)、126-129	2014
342	母性看護学実習での分娩見学体験の学び	井上 沙織、佐々木 明香	日本看護学会論文集・看護教育、(44)、122-125	2014
343	看護学生が考える保健師助産師看護師法第5条「診療の補助」の様相	広瀬 京子、高倉 裕美子	日本看護学会論文集・看護教育、(44)、74-77	2014
344	助産師の児童虐待予防に対する認識	但馬 まり子、赤井 由紀子	日本看護学会論文集・母性看護、(44)、81-84	2014
345	産科医療補償制度認定30事例を助産婦の視点で分析して：P-mSHELL モデルによる背景要因分析	天本 都、土屋 八千代	日本看護学会論文集・母性看護、(44)、77-80	2014
346	母体搬送に対応する助産師の感情	谷本 名保恵、上田 恵、出島 可苗、陳野優子	日本看護学会論文集・母性看護、(44)、58-61	2014
347	死産に関わる助産師の感情：自然死産と人工死産の感情の比較	志田 淳子	日本看護学会論文集・母性看護、(44)、46-49	2014
348	乳房ケアにおける手袋装着についてのスタッフの認識	岡本 美香、加藤 芳果、馬淵 泉希	日本看護学会論文集・母性看護、(44)、18-21	2014
349	Z 病院を受診する妊婦のリスク評価	岡邑 和子、榎木 直子、西部 高子、松田加代子、中島典子、松本奈美、菅野峰子、山本あい子、工藤美子	日本看護学会論文集・母性看護、(44)、3-6	2014
350	産科病棟におけるユニットマネジメントのワークショップ開催の評価	中嶋光子、山本弘恵、吉田吉香、高橋有美、松山裕子、児玉雅美、高野恵子	日本看護学会論文集：看護管理、(44)、242-244	2014
351	学生の分娩介助の同意にかかわる現状と産婦の想い	牛之濱久代、中島通子、大平肇子、日比千恵、石川康代	母性衛生、55 (1)、190-197	2014
352	“庇護性”の視点から見た妊産婦にとっての助産師の関わりの意味	松嶋弥生	母性衛生、55 (1)、160-171	2014
353	助産学生の分娩介助実習における学びの現象的探求	松井弥生、永山くに子、鳥田啓子	母性衛生、55 (1)、128-135	2014

354	産婆・女医高橋瑞の生涯	大竹沙織、城丸瑞恵、佐藤公美子	日本看護歴史学会誌、(27)、84-91	2014
355	拓殖産婆制度と北海道別海村の拓殖産婆下川原スエの活動	宮本涼子、前田尚美、高橋弘子	日本看護歴史学会誌、(27)、47-61	2014
356	産科医療施設(総合病院)の看護職者が「気になる親子」を他機関への情報提供ケースとして確定するプロセス 乳幼児虐待の発生予防を目指して	唐田順子、市江和子、濱松加寸子	日本看護研究学会雑誌、37 (2)、25-37	2014
357	助産師へのフリースタイル分娩介助の教育プログラム	笹野京子、齋藤佳代子、二川香里、松井弘美、長谷川ともみ	富山大学看護学会誌	2014
358	多様な分娩体位に実践に影響を及ぼす要因の探索	篠崎克子	日本助産学会誌、28 (1)、39-50	2014
359	助産事故後も助産師に対する信頼感を維持している女性の体験	高島葉子、塚本康子、中島通子	日本助産学会誌、28 (1)、26-38	2014
360	low risk 妊婦に対する助産師外来における妊婦健診の安全性評価(第2報)	吉井妙美、石田京子、町田玉枝、佐世正勝	母性衛生、55 (2)、527-533	2014
361	死産を体験した母親を援助する助産師の感情	中山サツキ、岡山久子、玉里八重子	母性衛生、55 (2)、462-470	2014
362	産褥早期の会陰部痛による日常生活への支障と病院・助産所におけるケア	竹内翔子	母性衛生、55 (2)、342-349	2014
363	保健師・助産師・看護師の職務満足度と思考特性や職業経験の質との関係	吾郷美奈恵、三島三代子、石橋照子、梶谷みゆき	日本医学看護学教育学会誌、23 (2)、13-20	2014
364	助産実践を記録する判断理由や状況に関する探索研究	山崎智里	日本看護医療学会雑誌、16 (2)、15-22	2014
365	地域で生活している母子への支援 香川県における助産師の活動の変遷	野口純子	香川母性衛生学会誌、14 (1)、34-39	2014
366	「助産師のほっと相談室」における三年間の活動報告 母親の意見と担当した助産師の意見を分析して	加藤淑美、井上美智子、十河幸恵、筒井真由美、眞鍋由紀子、野口純子	香川母性衛生学会誌、14 (1)、13-19	2014
367	初乳中の母乳成分の経時的変化と分娩後一週間の母親の精神的ストレス	尾筋淑子、村松恵子	香川母性衛生学会誌、14 (1)、8-12	2014
368	助産教員が分娩介助実習指導者に求める能力	大崎博子、志村千鶴子、恵美須文枝	日本助産学会誌、28 (2)、196-206	2014
369	何故妊婦は会陰マッサージをしないのか?実態調査から探る	竹内翔子、堀内成子	日本助産学会誌、28 (2)、173-182	2014
370	妊婦の飲酒実態と飲酒行動要因の分析	早狩瑠子、小川真理子、三崎直子	母性衛生、55 (4)、813-821	2015
371	死産に関わる看護師・助産師の悲嘆課程	津田ちひろ、刀根洋子	母性衛生、55 (4)、800-806	2015
372	分娩介助実習を担当する臨床指導者の実態(第2報) 実習指導助産師の指導能力	緒方京、恵美須文枝、中田恵美、下睦子	母性衛生、55 (4)、730-741	2015
373	分娩介助実習を担当する臨床指導者の実態(第1報) 実習指導助産師の背景	緒方京、恵美須文枝、中田恵美、下睦子	母性衛生、55 (4)、721-729	2015
374	授乳支援場面における助産師と母親の相互行為 エスノドロジーによる分析	和智志げみ、浦野茂、水見桂子	母性衛生、55 (4)、700-710	2015
375	緊急帝王切開における分娩体験の受容と自分なりの意味づけを促す看護	椎谷由実、坂上明子、山本栄子	母性衛生、55 (4)、643-650	2015
376	陣痛促進薬使用時の助産師の補助業務 看護管理体制と補助業務に関する判断および安全配慮意識との関連	安田かづ子	母性衛生、55 (4)、625-634	2015
377	大学教員とICBLC(国際絡テーションコンサルタント)助産師による母乳育児支援の授業からの学び	中田久恵、大槻優子、藤原優子、高橋弥生、山田千恵	医療保健学研究、6、57-68	2015
378	分娩期ケアにおける助産師の経験知の形成過程とその構造	落合めぐみ、加納尚美	茨城県立医療大学紀要、20、25-35	2015
379	視覚障害のある妊産婦に関わった助産師の周産期看護の経験	竹明美、齋藤早苗、辻本裕子	ヒューマンケア研究学会誌、6 (2)、9-16	2015
380	岐阜県立看護大学における看護実践研究支援の成果と課題	大川眞智子、岩村龍子、田辺満子、丹菊友祐子、前田美佐子	岐阜県立看護大学紀要、15 (1)、139-147	2015
381	助産外来に関する助産師の技術習得状況とキャリア発達	永田智子、田中満由美	山口県母性衛生学会誌、31、7-13	2015
382	助産師による妊娠期からの育児支援	藤原なつ子、服部律子	岐阜県立看護大学紀要、15 (1)、29-41	2015
383	出生前診断によって胎児の子後不良を予想された家族へのパスプランの開発	馬場枝里香、服部律子	岐阜県立看護大学紀要、15 (1)、3-15	2015
384	PNSにおける新人助産師に影響を与えたペアの関わりについて	西山明子、川口由佳、東條みなみ、百枝侑莉	日本看護学会論文集 看護教育、(45)、262-265	2015
385	助産学生が認識する母性看護学実習と助産学実習の違い	田中時穂	日本看護学会論文集 看護教育、(45)、134-137	2015
386	要支援妊産婦を対象とした地域連携のためのツールの作成と評価	星子紗里奈、山本祐子、山口真帆、野村美穂、居澤文、高田美穂、佐藤美幸	日本看護学会論文集 ヘルスポモーション、(45)、171-174	2015
387	VBACを選択した母親の思い テキストマイニング分析から助産師の関わりを考える	前川智子、小原夕依、松本ひろみ、長福明美、石本泰子	日本看護学会論文集 ヘルスポモーション、(45)、117-120	2015
388	産褥期の入院期間短縮の導入を試みて 分娩後5日目から4日目退院へ	酒井和子、松浦美里、岡田麻代、道谷和希子	日本看護学論文誌 ヘルスポモーション、(45)、18-21	2015
389	マタernalアイデンティティ獲得を支援するか開業助産師の援助	小野智佐子	日本看護学会論文集 ヘルスポモーション、(45)、11-14	2015

390	病院勤務助産師のフリースタイル分娩の介助体験の思いと推進への課題	宮本雅子、但馬まり子、赤井由紀子	日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション、(45)、7-10	2015
391	病院におけるクリニカルパス 看護職員のキャリア発達・支援に関する基礎調査	太谷忠広、佐藤未知、塚越聖子、荻原京子、神田清子、藤本桂子、菊池沙織、堀越徳子、佐光恵子	群馬保健学紀要、35、21-28	2015
392	看護職員のキャリア発達のためのキャリア計画・支援の実態	菊池沙織、神田清子、藤本桂子、二度玉江、岩永喜久子、佐光恵子、常盤洋子、荻原京子、太谷忠広	群馬保健学紀要、35、1-9	2015
393	立ち会い出産における夫の満足感と立ち会い体験および妻への親密性との関連	松田桂子	日本看護研究学会雑誌、38 (1)、93-100	2015
394	産科スタッフが行う相談外来での困難の実態	亀岡美紀、大賀公子、岡部菜摘、小澤千恵、矢島春江	日本看護学会論文集、精神看護、(45)、219-222	2015
395	側臥位分娩介助時の助産師の体験と思い	小原俊江、浦知恵、塚田重美香	日本看護学会論文集、看護管理、(45)、351-354	2015
396	配置部署における職務満足度に関する考察	稲田宏美、関口和宏、宮内康子	日本看護学会論文集、看護管理、(45)、185-188	2015
397	助産システムにおける概念分析に基づく助産師の自律性の特徴	伊藤由美、良村貞子、佐川正	母性衛生、56 (1)、95-103	2015
398	産後ケア施設におけるケアが母親のコンフォートに及ぼす影響	北田ひろ代	母性衛生、56 (1)、66-76	2015
399	助産師教員の助産実践能力の構造に関する研究	眞鍋えみ子、倉本孝子、柳吉桂子、谷口初美、高田昌代、我部山キヨ子	助産雑誌、69 (4)、328-335	2015
400	明治初期神奈川県における内務省免状産婆養成の特徴 教授課程に産科手術が含まれたことの検討を中心に	小川景子	日本看護歴史学会誌、(28)、67-82	2015
401	NICUに配属となった新卒助産師の職場適応	前田広美、久保幸代、巖千晶、安田友恵、丸山祝子、鈴木亨子	日本看護学会論文集、急性期看護、(45)、298-301	2015
402	安心・安全な早期母子接触に向けての取り組み	野村由美子、杉本和彦、三上珠希、尾崎浩士	日本周産期・新生児医学会雑誌、51 (1)、254-261	2015
403	子どもを亡くした遺族のケアを体験した看護者の認識と行動	大久保明子	死の臨床、38 (1)、154-159	2015
404	実践報告 妊娠期の講義終了後に感じたこと 助産学実習の初期段階に成長したことと学び	藤田小矢香、狩野鈴子、濱村美和子、嘉藤恵	助産雑誌、69 (6)、516-523	2015
405	分娩の主観的評価に影響を与える要因 医療処置と入院中のケア	乾つぶら、鳥田三恵子、林猪都子、猪俣理恵	母性衛生、56 (2)、399-406	2015
406	保健師・助産師が感じる初産婦の「育てにくさ」の背景要因 乳児家庭全戸訪問事業における体験から	岩谷久美子、清輔裕子、森寛子	母性衛生、56 (2)、383-390	2015
407	院内助産にける分娩の安全性と出産体験の検討	朝見彩香、永井彩乃、西村さつき、川島もと子、初田聡美、常田裕子	母性衛生、56 (2)、376-382	2015
408	分娩介助実習を担当する臨床指導者の実態 (第3報) 実習担当に対する意義と課題	中田恵美、恵美須文枝、緒方京、下睦子	母性衛生、56 (2)、282-291	2015
409	新生児蘇生シュミレーション教育にブリーフィング/デブリーフィングが与える影響	小西恵里、川島晶子、川上恵、中村恵美子、鈴木康之	日本周産期・新生児医学会雑誌、51 (3)、1024-1032	2015

(青森中央学院大学 看護学部 准教授 たまくま かずこ)
 (青森中央学院大学 看護学部 准教授 たかはし よしこ)
 (青森中央学院大学 看護学部 助手 ほか ちなつ)